5－14　概算事業費

事業費は、建設費、資機材費、コンサルタント料、予備費等で構成され、その内訳は下記の通りである。

5-14-1 積算条件

事業費の積算にあたっての条件は次の通りである。

(1) 概算算出時点…………… 1983年9月

(2) 外国為替交換率………… 1 USドル＝245円

1バーツ＝10.70円

(3) 工事期間………………… 12カ月

(4) 施工業者…………………日本法人による契約

(5) 免　税…………………建設用資機材の輸入に関する関税、および日本法人施工会社にかかる事業税等の免除

5-14-2 工事範囲

基本設計調査団は、現地においてタマサート大学学長はじめ本プロジェクト関係者と、両国工事分担範囲について実質討議を行い、基本的合意の上ミニッツに記載した。以下は無償資金協力範囲での日本側負担工事範囲とタイ国側負担工事範囲の概要である。

(1) 日本政府負担工事

a) 建　物

－管理事務諸室

－研究諸室

－視聴覚諸室

－図 書 室

－セミナー・会議諸室

－ホステル

－そ の 他

b) 資 機 材

－印刷製本用機材

－サウンド・ラボ機器

－図書室用機器

－セミナー・会議用機器

－ワゴン車

－そ の 他

(2) タイ国政府負担工事

a) 水質検査、測量、地質調査等の基本設計に必要な資料の提供

b) 着工前における整地、アクセス道路等の敷地準備作業

c) 敷地への電力、電話、給排水設備の提供および建物外付帯施設の提供

d) 無償資金協力範囲で調達される資機材のタイ国輸入港における荷上げ、免税、通関および国内輸送に係わる迅速な措置。

e) 認証された契約にもとづき、資機材および役務の提供にたずさわる日本人に対して、タイ国で課せられる関税、国内税、その他の財政課徴金を免除すること。

f) 認証された契約に基づき、資機材および役務を提供することを必要とされる日本人に対して、その作業の遂行のためのタイ国への入国および同国及び同国における滞在に必要な便宜の供与。

g) 無償資金協力範囲で建設される施設および供与資機材の適正かつ効果的な維持管理。

h) 植栽工事、外柵、守衛所、駐車場、外灯等の付帯外構工事の実施。

i) センターの什器備品の調達。

5-14-3 日本政府負担工事費概算

(1) 建 設 費

a) 直接工事費		(単位：千円)
	一建築工事	498,547
	一設備工事	127,300
	一外構工事	50,303
	一直接仮設工事	33,298
	小 計	709,448
b) 共通仮設費		59,043
c) 現場経費		92,469
d) 一般管理費		70,941
a)～d) 建設費合計		931,901

(2) 資機材費

a) 管理事務部門	28,633
b) セミナー・会議部門	730
c) 視聴覚部門	27,032
d) 図書部門	6,614
e) 研究部門	26,110
f) そ の 他	2,500
a)～f) 資機材費合計	91,619

(3) コンサルタント料

a) 直 接 費

一直接経費	16,895
一直接人件費	30,815
小 計	47,710

b) 間 接 費

一諸 経 費	30,814
一技術経費	12,326
小 計	43,140

a)～b) コンサルタント料合計　　90,850

(4) 予 備 費　　35,000

（但し、物価上昇は見込まず）

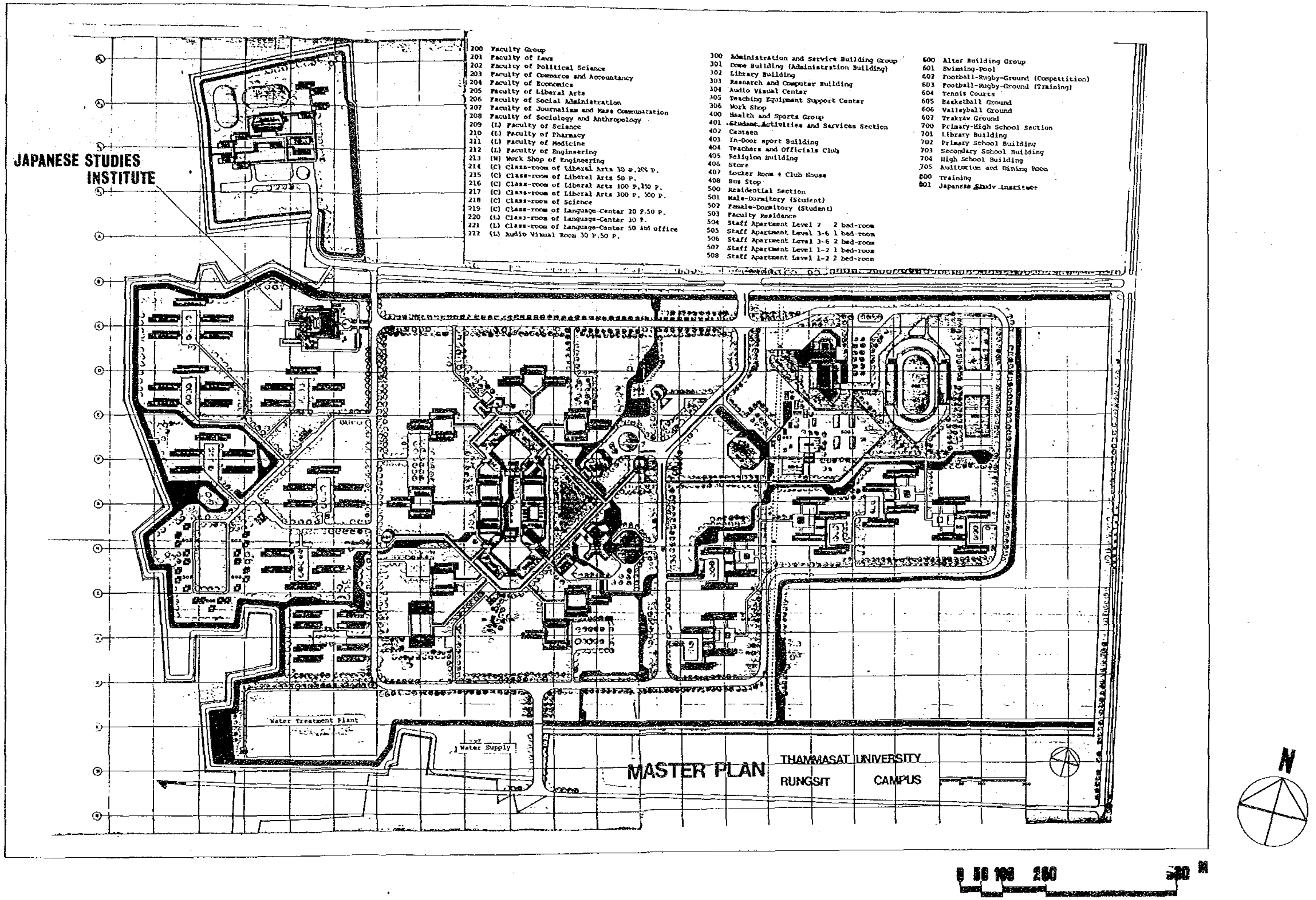
(1)～(4) 事業費総計　　1,149,370

5-14-4 タイ国政府負担工事費概算

タイ国政府負担工事費概算においては、インフラストラクチャー建設費等のタマサート大学新キャンパス建設工事の一環として本センター設立計画に係わらず既に用意されているものは、積算の対象から除外する。

（単位：千円）

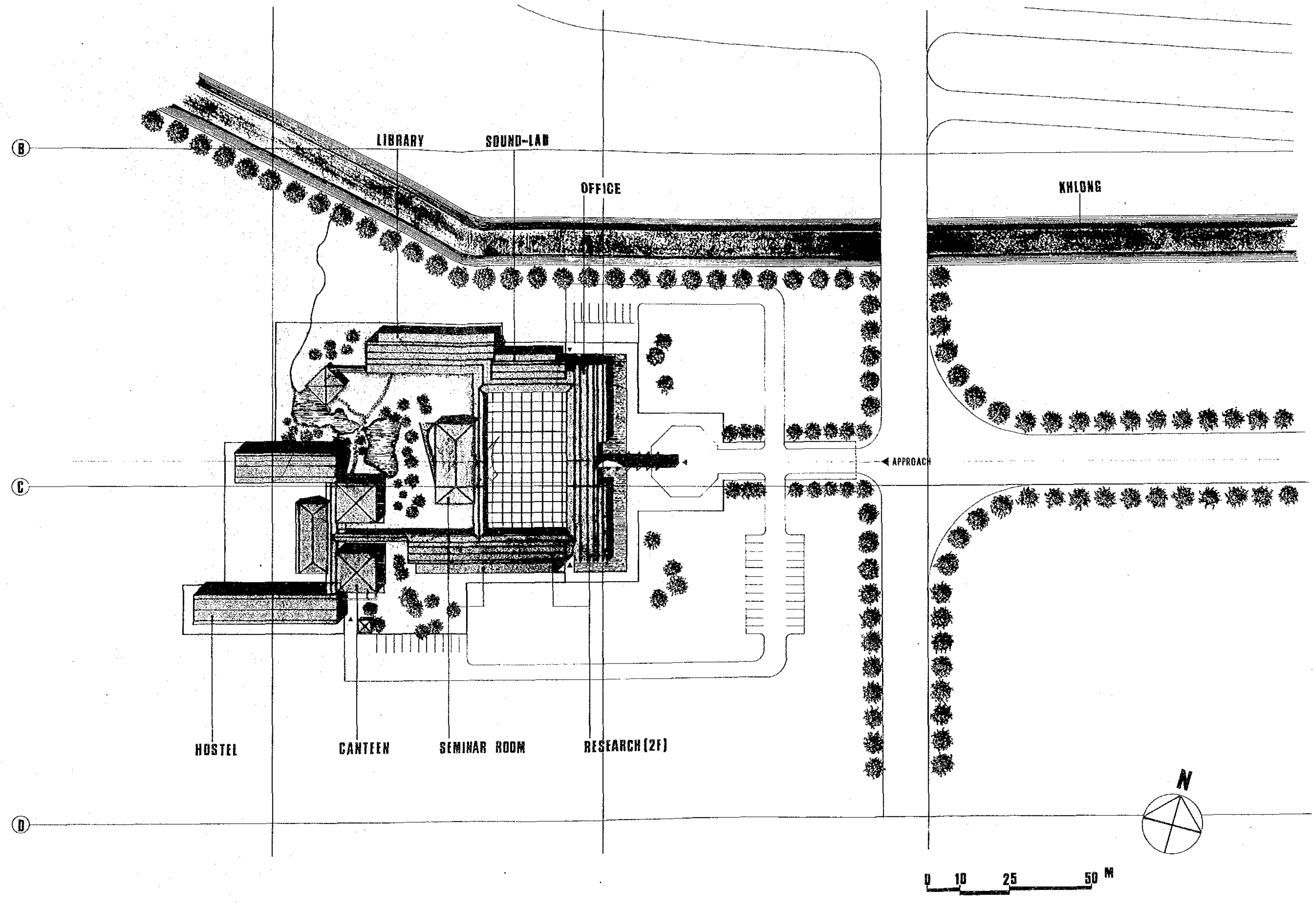
(1) 輸入資材通関手続料	1,500
(2) 中庭工事費	7,500
(3) 日本庭園工事費	20,000
(4) 設備幹線接続費	500
(5) 事務家具、備品等購入費	30,000
(1)～(5) タイ国政府負担工事費合計	59,500



JAPANESE STUDIES INSTITUTE

LAYOUT PLAN

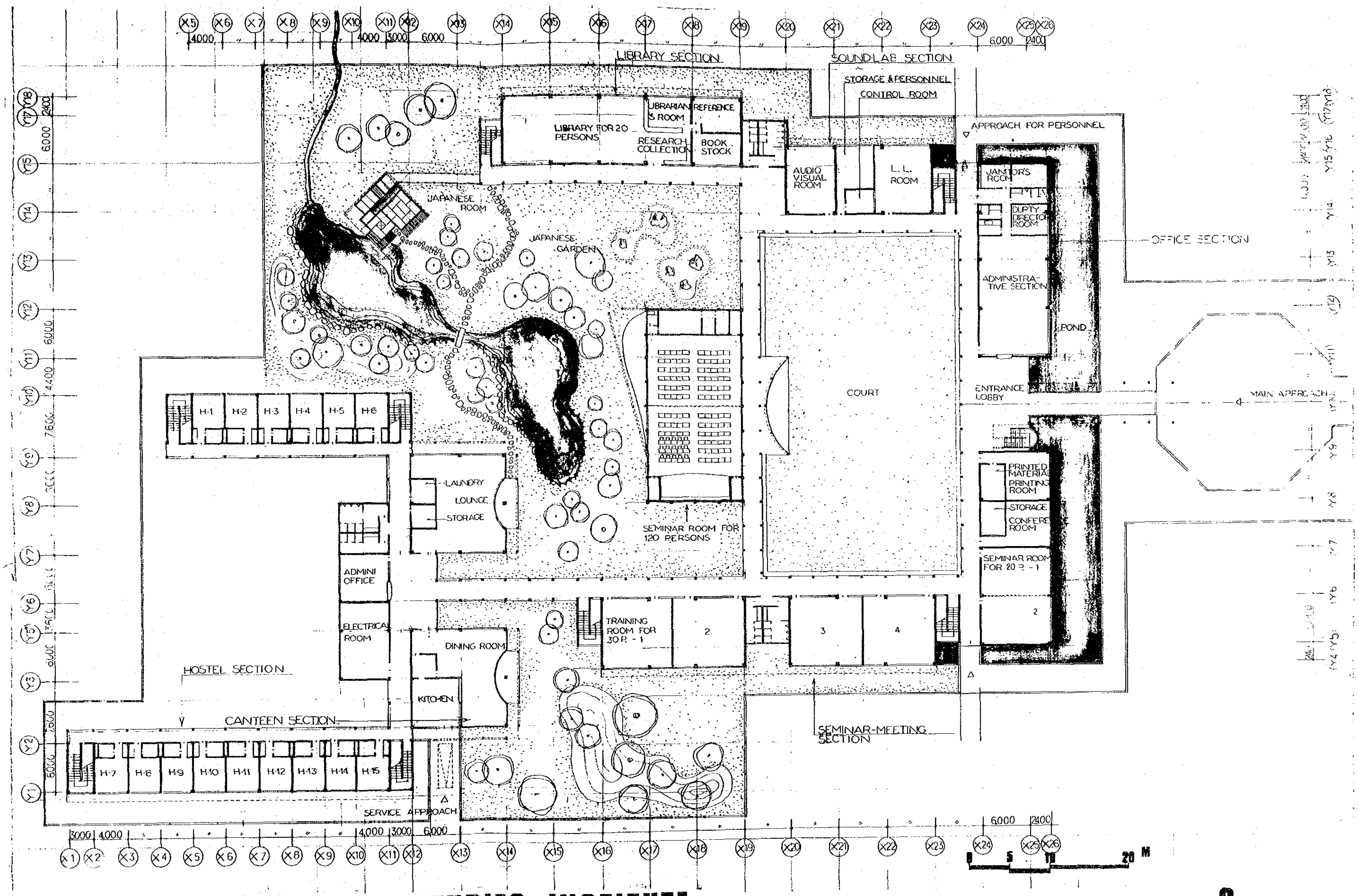
0



JAPANESE STUDIES INSTITUTE

SITE PLAN

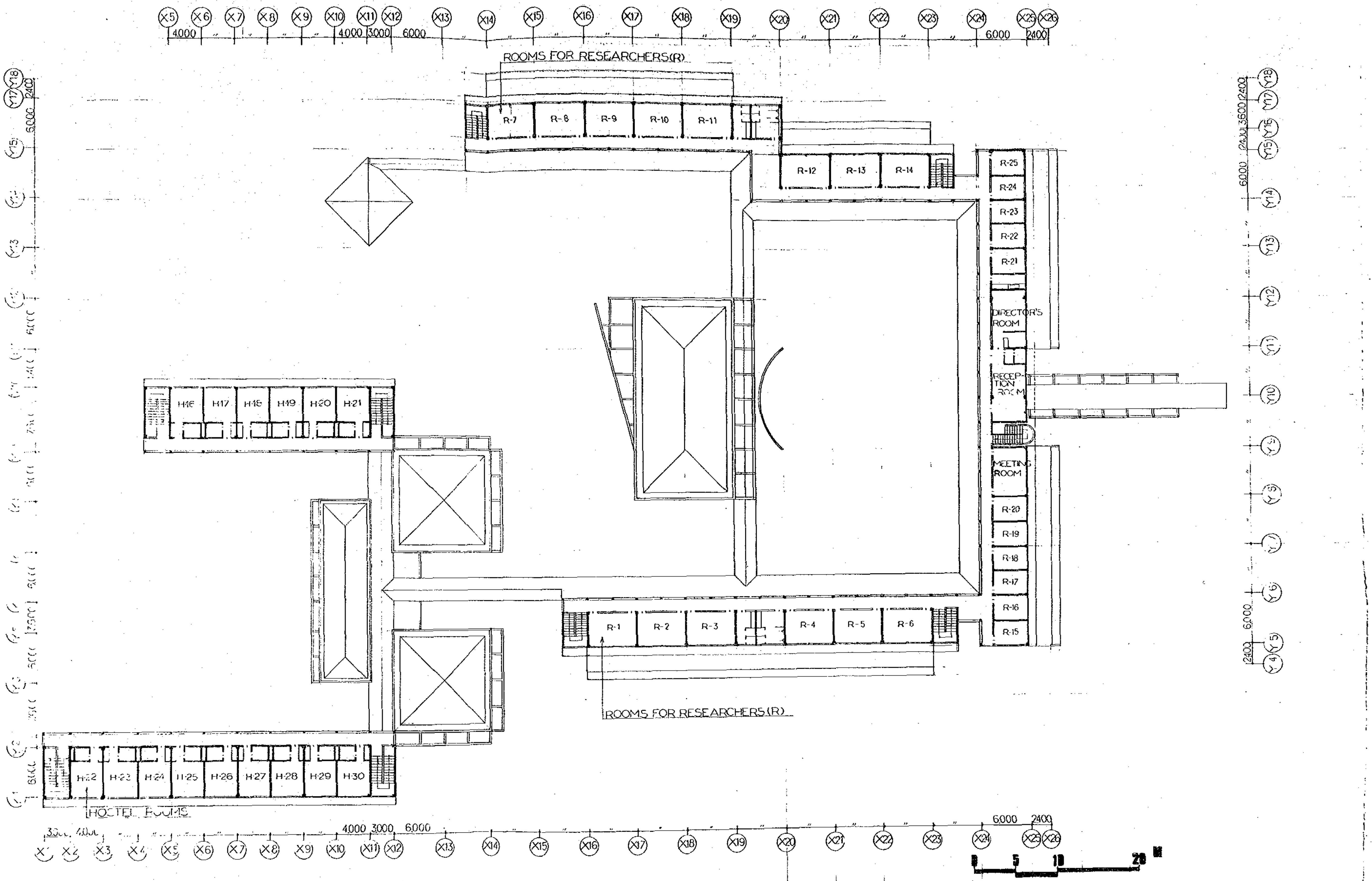
1



JAPANESE STUDIES INSTITUTE

FIRST FLOOR PLAN

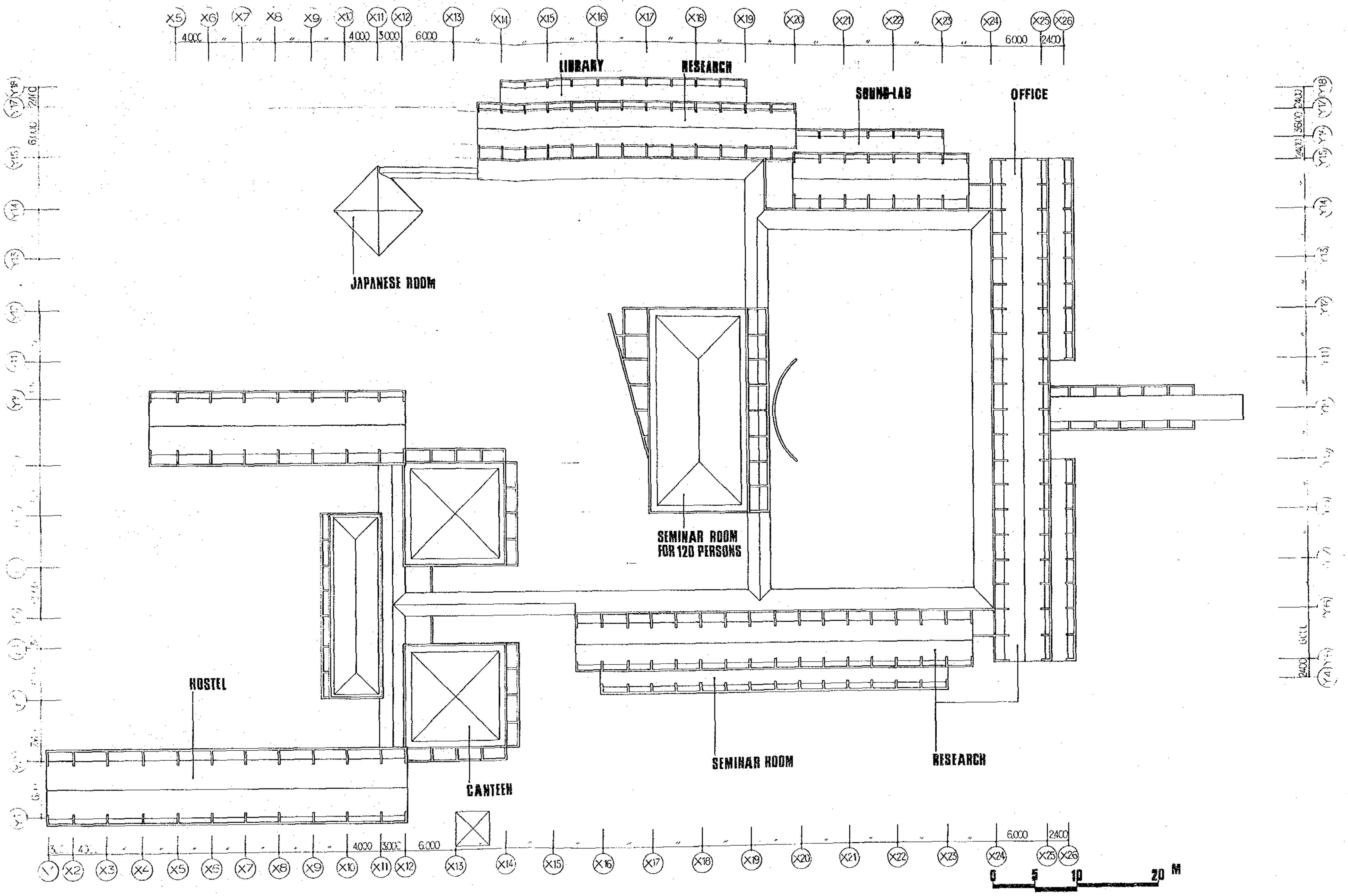
2



JAPANESE STUDIES INSTITUTE

SECOND FLOOR PLAN

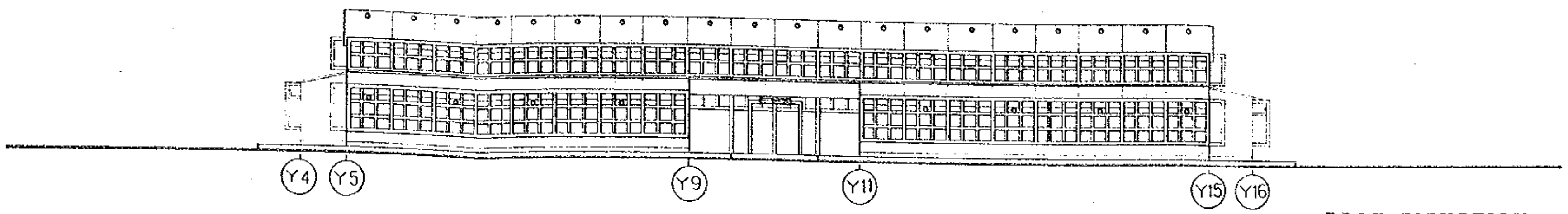
3



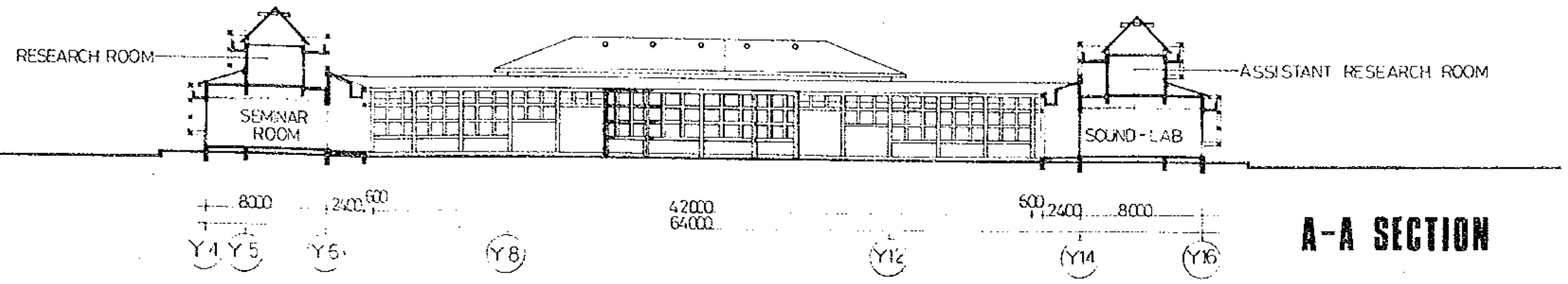
JAPANESE STUDIES INSTITUTE

ROOF PLAN

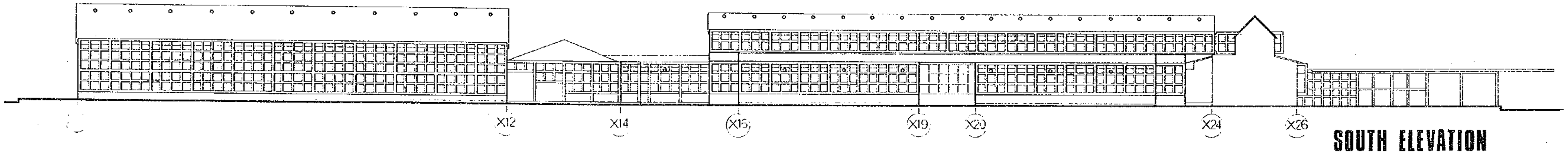
4



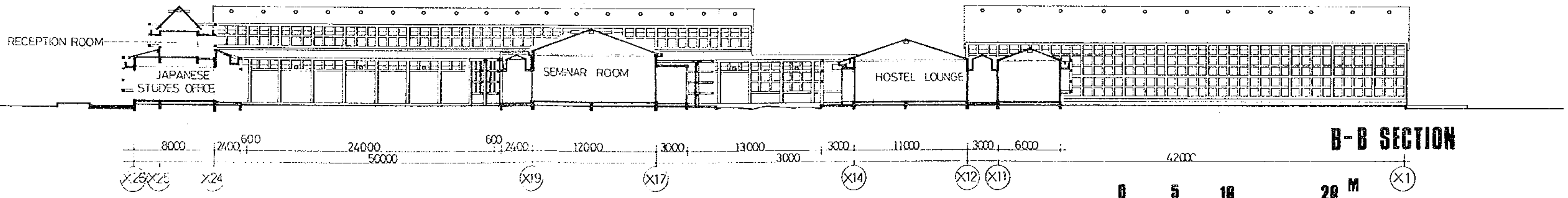
EAST ELEVATION



A-A SECTION



SOUTH ELEVATION

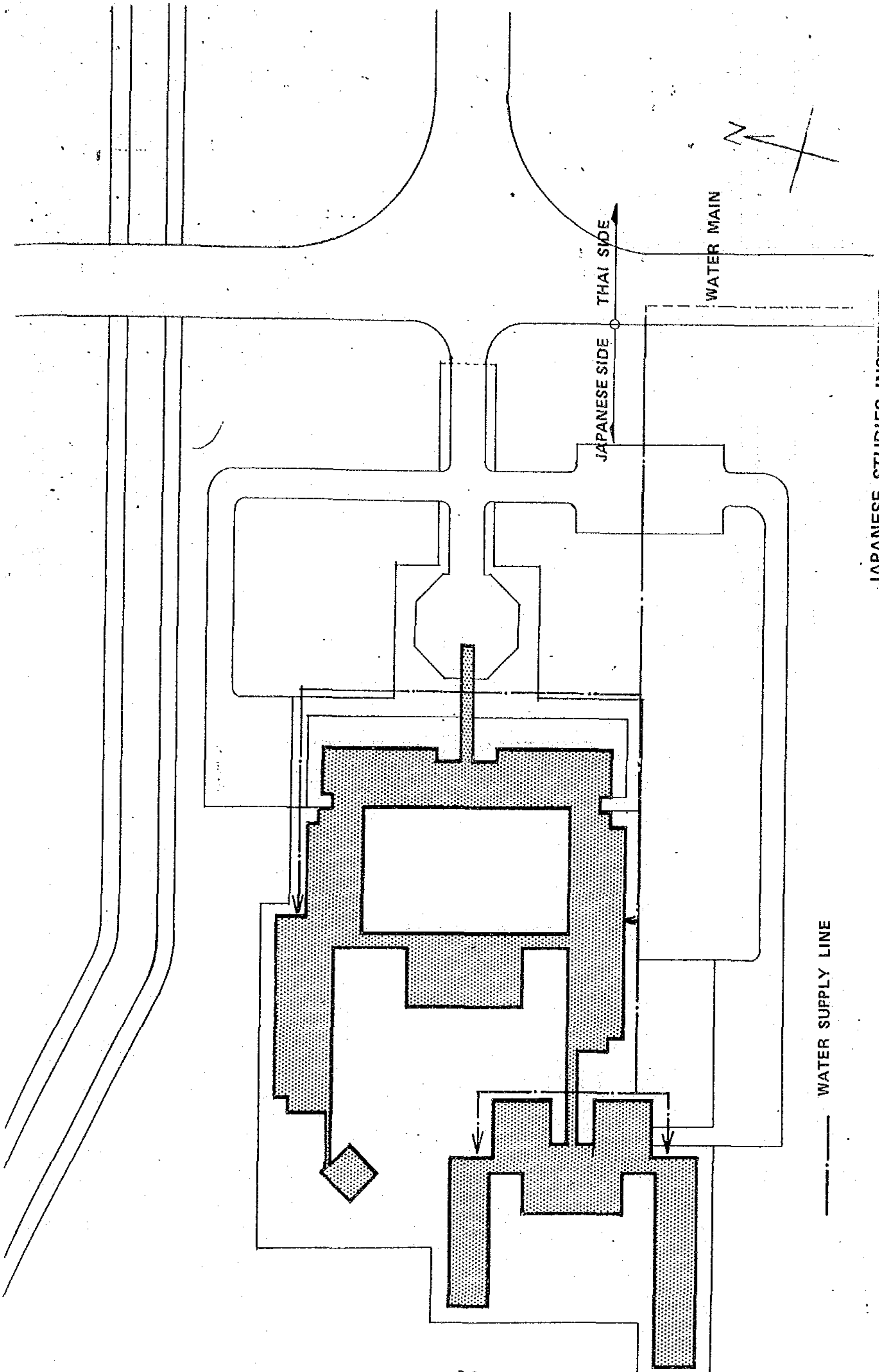


B-B SECTION

JAPANESE STUDIES INSTITUTE

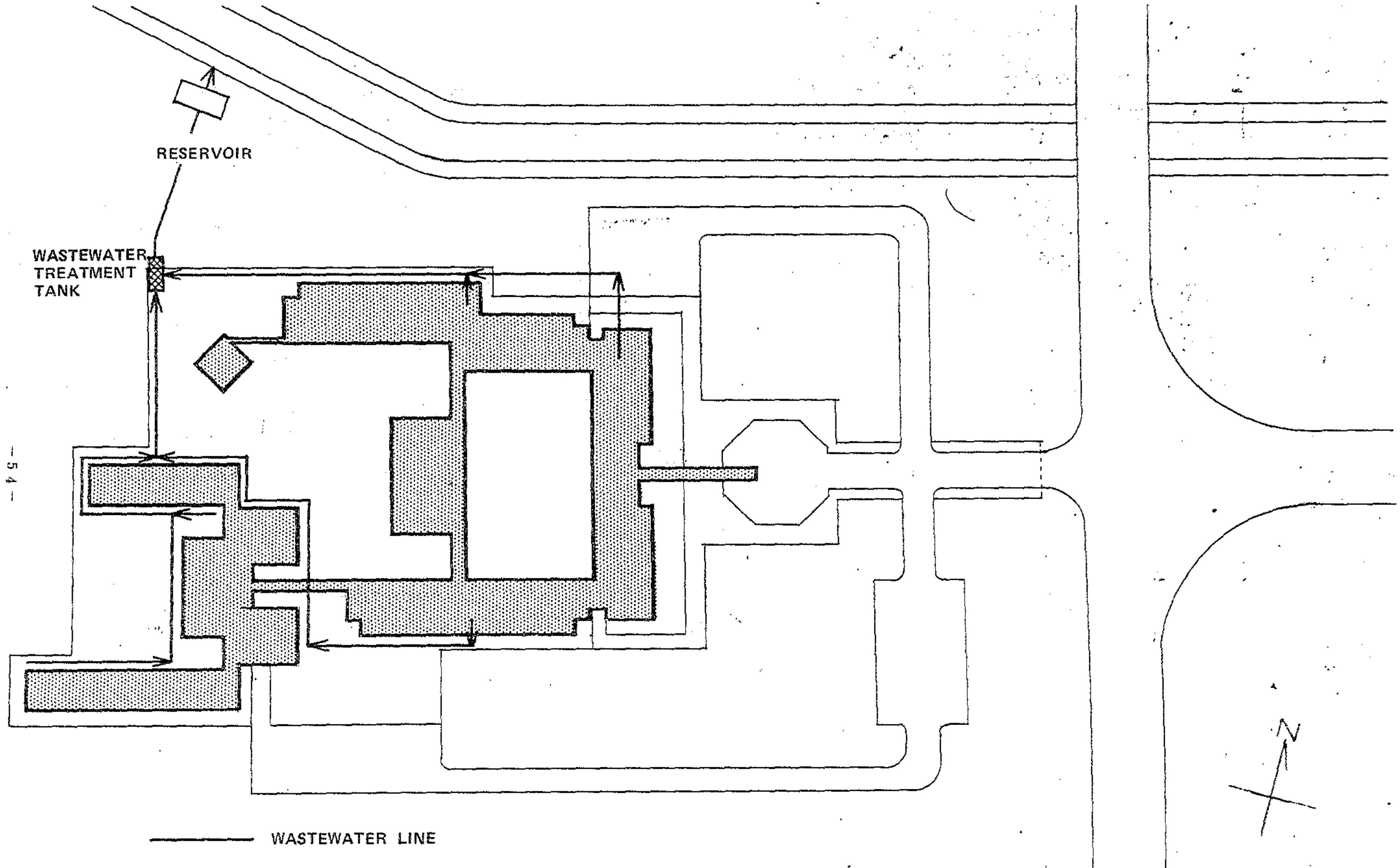
ELEVATION & SECTION

5

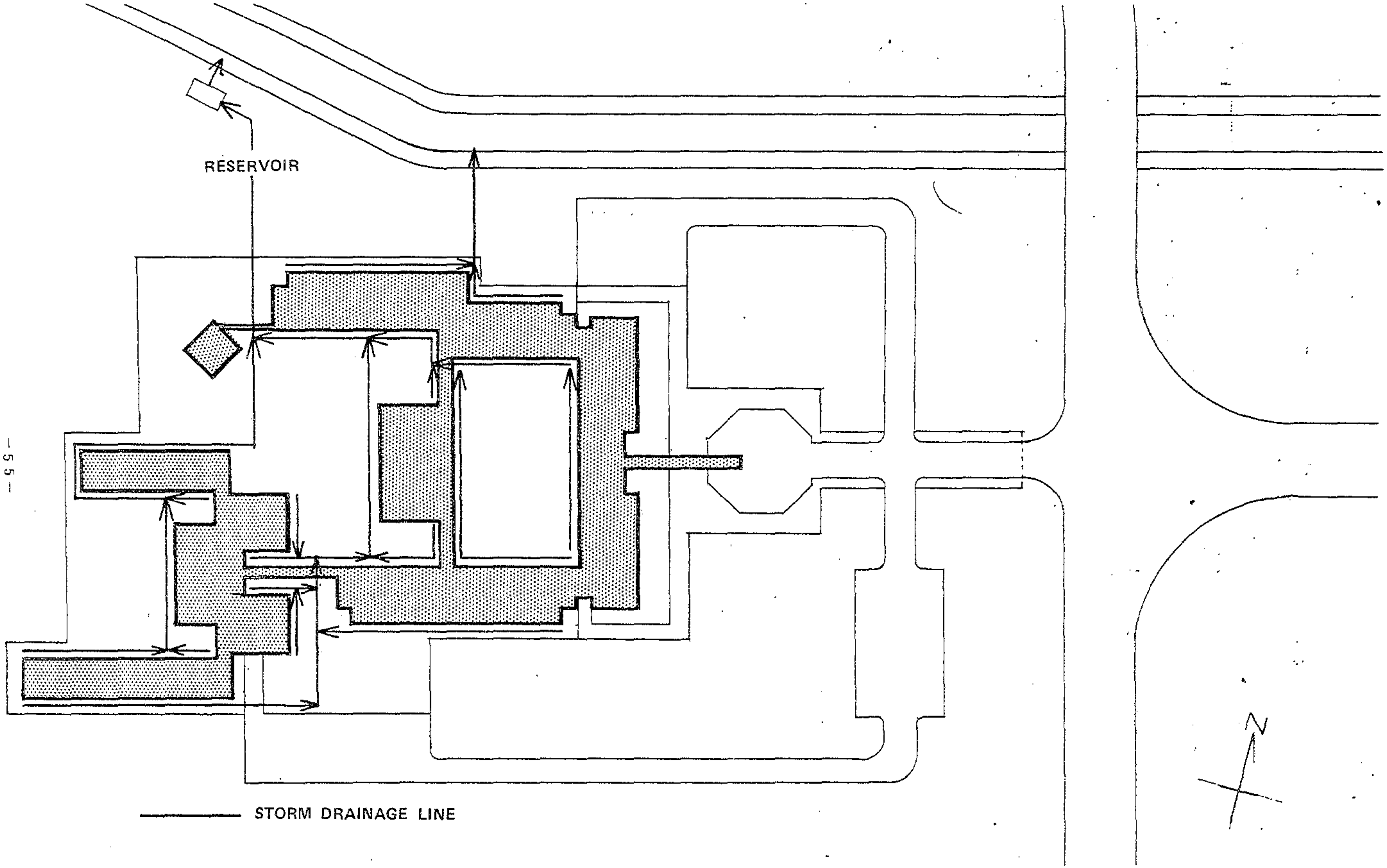


6

JAPANESE STUDIES INSTITUTE
WATER SUPPLY SYSTEM

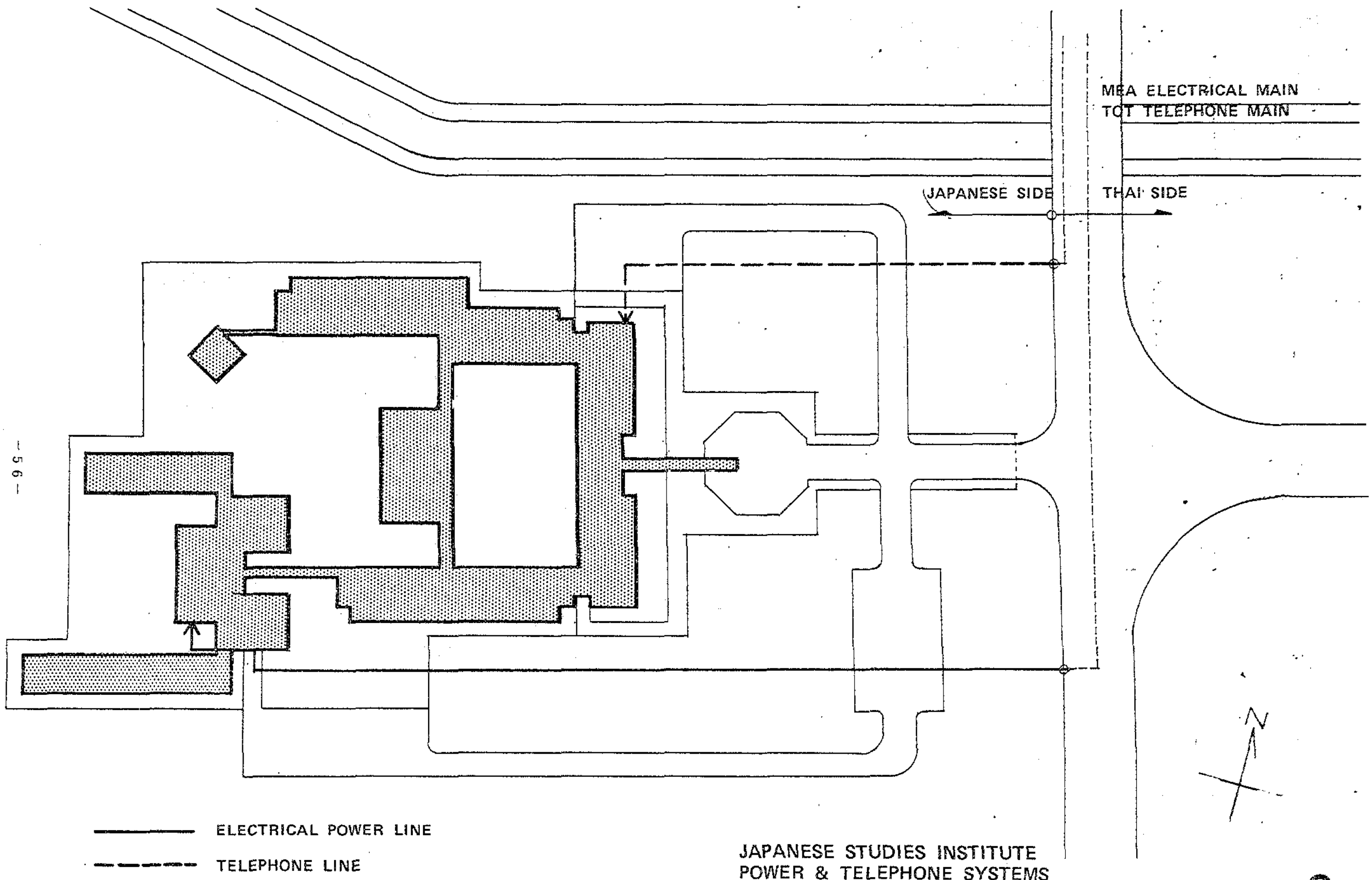


JAPAENSE STUDIES INSTITUTE
DRAINAGE SYSTEM



JAPANESE STUDIES INSTITUTE
STORM DRAINAGE SYSTEM

8



JAPANESE STUDIES INSTITUTE
POWER & TELEPHONE SYSTEMS

9

第6章　事業実施体制

6－1　プロジェクト遂行最高責任者

本プロジェクトの計画および実施にあたってのタイ国側の最高責任者はタマサート大学学長であり、本センター建設のための実施設計・監理契約、工事契約、施設完成引渡し諸手続に関する責任者となる。また、現在すでに15名からなる日本研究センター執行委員会がタマサート大学内に設置されており、その中から建設計画実務業務の担当者が選出され、タイ国内での調整・連絡作業、建設業者との諸折衝などの実務にあたることになっている。

6－2　日本研究センターの運営計画

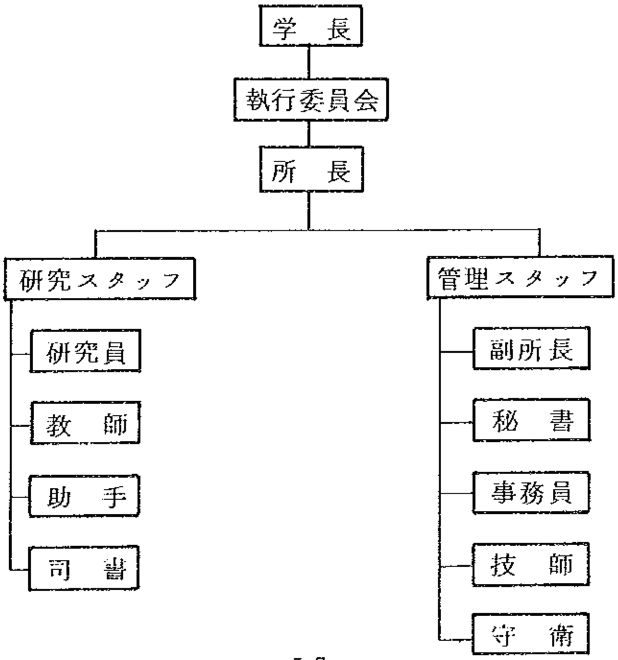
6-2-1　日本研究センターの組織

日本研究センターはタマサート大学の付属機関であり、その最高責任者は学長である。本センターの方針および活動などの決定機関として執行委員会（ Executive Committee ）が設置されている。この執行委員会は、タマサート大学理事会（ University Council ）によって学内および学外から選出された委員長と8～15名の委員によって構成されている。

本センターの実務責任者として所長（ Executive Director ）が同大学理事会によって任命される。なお、執行委員および所長の任期は4年と規定されている。

本センターの実務スタッフは、研究スタッフと管理スタッフの2部からなる常勤スタッフで構成されている。研究スタッフは研究員、教師、助手、図書館司書であり、管理スタッフは副所長、秘書、事務員、技師、守衛であり、その組織は下図の通りである。

（日本研究センター組織図）



常勤スタッフは毎年増員される予定であり、その計画は下表の通りである。

（日本研究センター職員配置計画）

職種　　年度	1984	1985	1986	1987	1988	小計人数
1. 所長	1	—	—	—	—	1
2. 研究スタッフ						
—研究員・教師	2	5	5	5	3	20
—助手	3	7	6	5	5	26
—司書	1	—	—	1	—	2
3. 管理スタッフ						
—副所長	1	—	—	—	—	1
—秘書	1	—	—	—	—	1
—事務員・その他	2	8	6	2	2	20
—技師	—	1	—	1	—	2
—守衛	2	2	6	2	1	13
合計人数	13	23	23	16	11	86

6-2-2　日本研究センターの運営予算

本センターの運営に必要な資金の計画は、前述の日本研究センター５カ年計画（1982 ～ 1986）の中で決定されている。しかし、この計画ではセンターの活動予算のみが決定されており、その金額は次表の通りである。この計画から欠落しているスタッフの人件費、施設保守管理費、資機材消耗品購入費、設備運転光熱費、車輌維持費等については、後述の６－５維持管理計画の中で詳しく検討してあり、その結果も次表の中に加えてある。

本センターの運営に必要な経費は、主としてタイ国政府大学庁タマサート大学予算で賄われるが、その他の財源として次のようなものが考えられる。

(1)　外国政府援助資金
(2)　民間寄付
(3)　研修料
(4)　ホステルの宿泊料
(5)　食堂の飲食料

(運営予算計画)

(BUDGET PLAN)

(Unit: 1,000 baht)

Categories	1984	1985	1986	1987	1988
Research	800	1,890	2,240	2,240	2,340
Seminar and Training	480	580	580	580	580
Documents and Publication	461	617	577	668	742
Curriculum Preparation	in the preparatory stage	in the process	in the process	in the process	
Personnel Exchange	400	2,300	2,800	2,800	2,500
Sub-total	2,141	5,387	6,197	6,288	6,160
Operation and Maintenance Cost	-	2,420	3,020	3,320	3,470
Total	2,141	7,807	9,217	9,608	9,630

6－3　実施計画

6-3-1　実施方式

本センターの建設は、日本政府無償資金協力の方式に基づいて実施され、その手順は次の通りである。

(1)　日本政府の建設計画実施への閣議決定

(2)　日本とタイ国の両政府間の交換公文締結

(3)　タイ国政府による同国内にある日本の外国為替取扱銀行との建設に要する日本供与資金の支払授権契約締結

(4)　タイ国政府と日本の設計・監理コンサルタントとの業務委託契約締結

(5)　日本政府による同上契約認証および支払い承認

(6)　実施設計および入札図書の作成

(7)　タイ国政府による実施設計図書等の承認と入札準備

(8)　入札および審査

(9)　タイ国政府と日本の施工業者との工事契約締結

(10)　日本政府による同上契約認証および支払い承認

(11)　工事および監理

6-3-2　実施設計

タイ国政府は、上記の手順に従って、日本の設計・監理コンサルタントと業務委託契約を締結する。そのコンサルタントは、原則として、本計画の基本設計調査を担当したものとする。実施設計は、すでに両国側で確認し合った基本設計に基づいて、予定期間内に実施され、その業務内容は次の通りである。

(1)　実施設計図の作成

a)　配置図および屋外施設設計図

b)　平面図、立面図、断面図、詳細図等の一般設計図

c)　構造計算書および構造設計図

d)　給排水、空気調和、換気、電気、ガス、その他の建築設備の設計図

(2)　仕様書の作成

建築工事、空調換気設備工事、給排水衛生設備工事、電気設備工事、ガス設備工事、資機材等の仕様書を作成する。

(3)　工事費予算書の作成

各工事毎に、工事費予算書を作成する。

センター建設計画実施決定後、タマサート大学内部にすでに設立されているセンター執行

委員会の中から、建設計画遂行のための実務担当者が選出される。担当者は、実施設計および建設に係わる連絡、意見調整等の業務に従事する。

6-3-3　入　札

実施設計完了後、施設の工事施工を請負う日本の施工業者を選定を入札により行う。入札に係る業務は次の通りである。

(1)　入札図書の作成

(2)　応札業者の資格条件の設定

(3)　応札業者の資格審査

(4)　応札業者の選定

(5)　現場説明

(6)　入　札

(7)　入札評価および施工業者の選定

(8)　工事契約に係る諸業務

6-3-4　施工計画

施工計画については、上記のタイ側の実務担当者および日本側担当者の間で詳細な工程を検討し、両国側負担工事のそれぞれの適切な着手時期を策定し、資機材の調達・現場搬入・据付時期の設定を行う。

施工においては、乾期中に土工事、杭工事、基礎工事等が完了することが望ましい。また、日本を含めタイ国以外の国からの調達資機材の現場搬入までの期間と、現地機利用による施工時期との取り合い等を検討し、手待ちや後戻りのない工程を設定し、早期完成を目指すことが必要である。

6-3-5　監理計画

日本の無償資金協力の方式に基づき、日本のコンサルタントはタイ国側タマサート大学と締結した設計監理契約にもとづいて、工事監理を行う。工事監理業務の内容は、設計意図を実現させ、施工が契約に合致するよう公正な立場に立って工事施工業者の指導および監理をすることであり、その詳細は次のようである。

(1)　施工図等の検査および承認

工事施工業者から提出される施工図、建築材料、仕上見本、設備資機材等の検査。

(2)　工事の指導

工事計画、工程などの検討、工事施工業者に対する指導、施主への工事進捗状況報告。

(3) 支払承認手続の協力

工事中および工事完成後に支払われる工事費に関する請求書等の内容検討および支払手続の協力

(4) 検査立会い

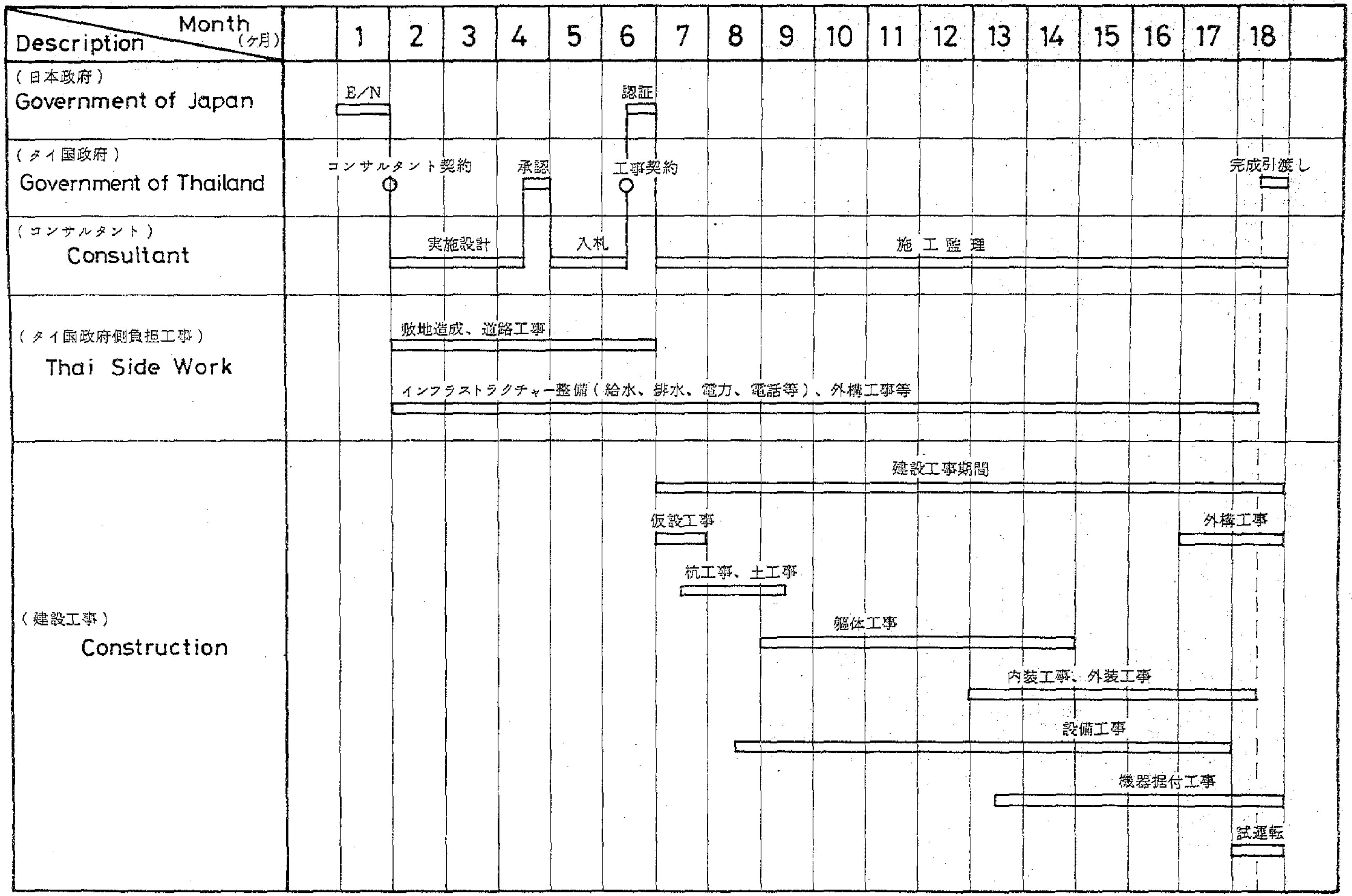
着工から完成までの工事期間中の各出来高に対する検査を行い、工事施工業者を指導する。コンサルタントは、工事が完了し、契約事項が遂行されたことを確認の上、契約対象物の引渡しに立会い、施工の受領承認を得て、業務を完了する。なお、着工から完成引渡しに至るまで、進捗状況、支払い手続、完成引渡しに関する必要諸事項を日本政府関係者に報告する。

6－4 実施スケジュール

本センター建設実施作業は、日本政府無償資金協力の手順に基づき日本とタイ国の両政府間で交換公文締結が行われた後の実施設計作業から始まる。実施設計作業に要する期間は約４カ月を見込む。実施設計作業完了後、工事施工業者決定までに少なくとも約２カ月を見込む。その後工事期間は約１２カ月と予想される。従って、交換公文締結後から工事完了まで約１８カ月が必要となる。

Tentative Construction Schedule

（建設実施スケジュール）



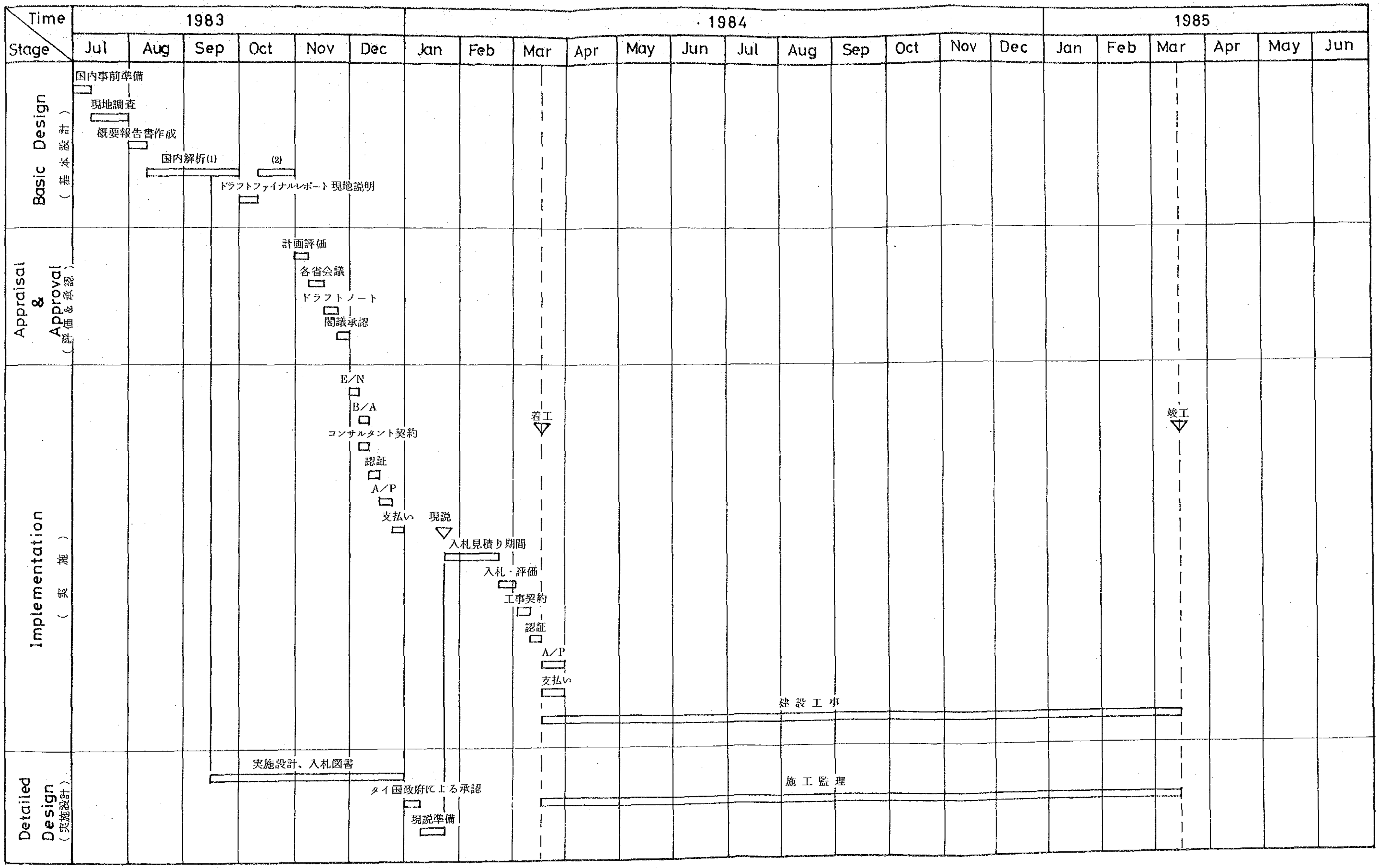
しかし、本センター建設は日本政府の予算制度により、1985年3月31日までに完成することが求められており、このため次頁の図の通りの変則的な手順を取らざるを得ない。その主な事項は工程を逆算すると次の通りである。

1) 建設工期は着工後12カ月と予想される。従って、1984年3月に着工する必要がある。
2) 実施設計図書および契約書類は1983年12月中に終え、入札の現場説明は、1984年1月に行う。
3) 基本設計の終了が1983年10月31日であり、その後日本政府の実施決定および政府間での交換公文締結される。しかし、実施設計が1983年12月末日に終了するためには、交換公文締結を待つことができず、両国政府の了解のもとに、1983年9月中旬に着手する必要がある。

また、実施設計の日本法人コンサルタントとタイ国政府との契約および日本政府の認証が1983年12月中旬までに完了し、タイ国政府側が行う建築許可等の諸手続きがスムーズに運ばれねばならない。

（工 程 計 画）

Schedule



6－5　維持管理計画

本センターの維持管理にあたり、または施設の機能を十分発揮させるための予算の確保が必要である。今までの調査の結果および収集資料をもとに、1985年度の本センターの維持管理費を概算すると次の通りである。

（項　目）	（年　額）
人件費	95
施設保守管理費	8
資機材消耗品購入費	40
設備運転光熱費	85
車輌維持費	6
雑　費	8
合　計	242万バーツ

(1)　人件費

前述の本センターの職員配置計画に示される通り、1984年度には、所長および管理スタッフ計18名と図書館司書1名が対象となる。1人当りの年平均人件費を5万バーツとし、合計年額95万バーツを見込む。

(2)　施設保守管理費

施設保守管理費は、主として設備管理費と清掃・維持管理費とからなり、その内訳は次の通りである。

（設備管理費）	（年　額）
－電球その他取替え	15,000
－空調フィルター取替え	5,000
－機器パーツ取替え	20,000
－設備機器付属品取替え	5,000
（清掃・維持管理費）	
－清掃	15,000
－保全・修繕	20,000
合　計	80,000バーツ

(3)　資機材消耗品購入費

資機材に関する消耗品の購入者は、視聴覚機器部品、印刷機器、消耗品、図書室消耗品等の購入費からなる。

（視聴覚機器部品購入費）		（年　額）
ーランプ取替え		10,000
（印刷機器消耗品購入費）		
ータイプリボン取替え		10,000
ー紙・インク（50万ページ分）		250,000
ーコピー用紙（10万枚）		120,000
（図書室消耗品購入費）		
ーマイクロプリンター		利用者負担
ーコピー		利用者負担
ー機器メインテナンス		10,000
	合　計	400,000バーツ

(4) 設備運転光熱費

a) 電力料金の概算

（計算条件）

ー最大負荷時の1カ月使用電力量を対象とする．

ー機器類の運転時間

ホステル：1日12時間　　1カ月当り25日

その他：1日　8時間　　1カ月当り25日

（空調および設備一般機器・電灯概算機器容量）

	動力kW	電灯kW
管理事務諸室	11	5
セミナー・会議諸室	26	13
視聴覚諸室	5	2
図書室	5	3
研究諸室	7	8
ホステル	20	13
その他	ー	6

（電力量）

容量　ホステル　33kW×12時間×25日＝　9,900kWH／月

　　　その他　91kW×　8時間×25日＝18,200kWH／月

　　　合　計　28,100kWH／月

（電力料金）

基本料金　　使用料金　　月額料金

8972 ＋（2.21×28,100）≒ 62,100バーツ

b) 水道料金の概算

（概算給水量）

－１日当りの給水量を下記の通りに試算した。

	給水量（m^3/日）
管理事務諸室	1.4
セミナー・会議諸室	3.0
視聴覚諸室	1.0
図書室	1.2
研究諸室	1.5
ホステル（含食堂）	4.8
合　計	12.9 ≒ 13 m^3/日

－１カ月当り給水量

13 m^3/日 × 25 日/月 ＝ 325 m^3/月

（水道料金）

基本料金		使用料金		月額料金
30	＋	4.50×325	≒	1,500 バーツ

c) LPG料金の概算

（概算LPG消費量）

－LPGの使用箇所は、厨房に限られる。

消費量（Kg／日）

厨房	30 Kg／日

－１カ月当り消費量

30 Kg/日 × 25 日/月 ＝ 750 Kg/月

（LPG料金）

消費量		単価		月額料金
750	×	10	＝	7,500 バーツ

d) 設備運転光熱費合計

	月　額				年　額
電　力	62,100	×	12カ月	＝	745,200
水　道	1,500	×	12カ月	＝	18,000
LPG	7,500	×	12カ月	＝	90,000
合　計					853,200 バーツ

(5) 車輌維持費

(計算条件)

—年間走行距離：25,000km

—ガソリン1ℓ当り走行距離：10km

—ガソリン1ℓ単価：12バーツ

(維持費概算)	年 額
ガソリン代(25,000/10)×12=	30,000
保険料	10,000
整備、修繕、その他	20,000
合 計	60,000バーツ

(6) 維 費

通信費、事務用品費、交通費等として、年額80,000バーツを見込む。

6-6 調 達

本センターの建設実施にあたり、建設資機材の調達においては、タイ国の建築技術、完成施設の維持管理能力、施設グレード、建設工期等から判断し、可能なかぎりタイ国産資機材を採用するよう心掛ける。労務の調達は、GRC工事に関する技術指導および一部の器材の据付・調整作業には日本から専門技術者の派遣が必要と思われるが、その他の工事作業にはタイ国現地労力で充分まかなうことが可能である。

なお、建設資機材の日本とタイ国での調達計画は、次の通りと予想される。

(1) 日本からの調達予定資機材

空調器

ポンプ、ファン

変圧器、コンデンサー

受電用遮断器、低電圧遮断器

電話交換機、インターフォン

特殊器材(視聴覚他)

(2) タイ国での調達予定資機材

建設用機械(クレーン、トラクター、ブルドーザー、コンクリートミキサー等)

仮設工事用資材

セメントおよびコンクリート骨材

生コンクリート

コンクリート製品(杭、GRC板、コンクリートブロック等)

鉄筋

木材一般

合板

金属・木製建具

ガラス（6mm厚以下）各種

レンガおよび空胴ブロック

塗料

内装材

配管材類

衛生陶器類

厨房機器類

電線ケーブルおよび電線管

盤類

照明器具類

コンセント、スイッチ類

上記のタイ国内調達予定資機材のメーカー、工場の殆んどはバンコック首都圏内またはその周辺に存在するため、建設現場への必要時期の調整、および輸送搬入は容易である。しかし、タイ国産資機材は生産量、品質にばらつきが時々みられるので、採用の際には厳密なチェックを行う必要がある。

(3) 日本からの輸入資機材のタイ国への搬入

日本で調達した資機材を横浜あるいは神戸からバンコックまで海上輸送した場合、直行便で7日から10日間要する。タイ国への輸入資機材は、タイ国法によりすべてPort Authority of Thailand（PAT）の管理下にあるKlon qtoi wharf（Chao Phaya河の河口より上流28km地点）で陸上げされる。通関、陸上げ手続きを含め、輸入資機材の港への到着から現場への搬入までの期間は短くて1週間と予想される。したがって、日本出港後現場に搬入されるまでの所要期間は2〜3週間である。

第7章　事業評価

タイ国タマサート大学日本研究センター設立計画の実施の評価を下記のごとく行う。

(1)　日本とタイ国の交流の歴史は長いが、相互理解への努力の歴史は短い。1950年代以来、両国の関係は、経済・貿易を中心としたものであり、このため様々な問題も起っている。

現在、この経済・貿易を中心とした日－タイ関係は、新たに文化・芸術・歴史等の相互研究を通じ、両国々民の相互理解を深め、真の友好関係を樹立してゆかねばならない時点にある。この点で、タイ国に日本研究の拠点となるべき本センターを日本の無償資金協力で建設しようとすることは効果的かつ時宜を得たものである。

(2)　本センターの建設により、タイ国の日本研究に対して下記の効果が期待される。

a)　日本とタイ国の友好的交流の証として、タイ国における最初の本格的な日本研究施設が完成する。

b)　日本研究に関する諸活動の調整・管理業務の能率が向上する。

c)　日本に関する情報の収集および交換などの業務の能率が向上する。

d)　タマサート大学と、日本研究に関心を持つ他の研究機関との連絡・調整が向上する。

(3)　上記の効果は、具体的には下記の事項を可能にする。

a)　日本に関する教育および研究の場を提供し、この場で行なわれる活動の成果を、日本とタイ国に関する現在および将来の問題に対する解決策、およびタイ国の日本に対する将来の政策等を見出すことに役立てる。

b)　タマサート大学において、学部および大学院レベルでの日本研究に関する課程および研究計画を拡充し、学生が日本をより深く理解するよう図る。

c)　日本に関する情報の提供、資料の出版、研修、セミナー等を行なうことを可能とし、タイ国および隣接諸国の様々な機関における日本に関する一般的知識および情報の拡充を図る。

d)　日本研究に係る学者・学生等がタイ国の知的指導者としてより一層重要な社会的役割を果すように支援する。

e)　日本研究に係る研究機関の相互関係の充実および向上により、タイ国、日本、およびその他の国の学者や一般人の相互関係を親密にし、ひいてはより一層組織的、体系的な日本研究の発展に寄与する。

f)　将来の日本研究に十分活用するため、過去の日本研究の資料および成果を収集すると同時に、常に最新の日本に関する情報および資料を入手し、いつでも正確な情報および資料を提供できる体制を整える。

(3) 本センターの研究成果や活動内容が、マスメディア等を通じ広報されること、本センターが日本語研修等で一般市民に開放されることなどにより、タイ国の一般大衆の日本理解に寄与することができる。

(4) 本センターが、タマサート大学の付属機関として設立されることは、次のように評価できる。

a) タマサート大学は、タイ国の社会のオピニオンリーダーである大学の中でも、特に重要な大学の一つであり、タイ国における各界の指導者を多く世に送り出している。本センターが、このような大学の付属機関として設立されることは、他のどのような形で建設される以上に評価できる。

b) タマサート大学は、かつては反日運動の拠点であったが、現在では、日本留学の経験をもつ教授スタッフを多数抱え、日本研究に力を入れている大学であり、本センター建設後運営体制が十分にとられ、施設が有効に利用されることが期待される。

また、日本研究の実績と可能性の面で他の大学を一歩リードしているタマサート大学が、本センターを通じ、タイ国における日本研究のパイプ役となることは、タイ国における組織的・体系的な日本研究を可能とし、質量の充実に十分寄与すると予想される。

c) タマサート大学は、将来ランシット新キャンパスに移転する予定である。本センターが計画通り建設された場合、センターは新キャンパスにおける最初の建物となり、タマサート大学ランシットキャンパス発展の歴史の上で、大きな意義を持つ。

第8章　総論・提言

(1) 結　論

前章に述べてきたごとく、タイ国政府要請のタマサート大学日本研究センター設立計画を、必要性、有用性・妥当性および効果の面で評価した結果、本計画は日本の無償資金協力事業に相応しいものであるとの結論に達した。

本計画のセンター施設、および資機材の供与をわが国の無償資金協力によって援助した場合、その効果は多大であると予想され、タイ国における日本研究の発展に大きく寄与するものである。

(2) 提　言

日本とタイ国の友好的な交流の推進および維持の上で、相互理解への努力は不可欠であるとの認識の上で、わが国の無償資金協力によるタイ国における日本研究の推進を目的とした日本研究センター設立計画は多大な意議を持つものであり、その円滑な運営のために、下記の提言を行う。

a）本センターの活動を一層充実させるために、日本研究に必要な文献・日本語教材・日本紹介の映画・スライド等の供与が望まれる。

b）本センターの活動を一層充実させるために、日本とタイ国の間の活発な人材交流を可能にする援助が望まれる。

(付　属　資　料)

1. 基本設計調査団の編成
2. 面接者リスト
3. 調査日程表
4. ミニッツ
5. 日本研究センター年間活動計画
6. タマサート大学ランシット新キャンパス建設計画の概要
7. 建設予定地ボーリングデータ
8. タマサート大学ランシット新キャンパス建設実施工程表
9. タマサート大学ランシット新キャンパス建設実施予算
10. タイ国における日本の国際交流機関
11. Government Building Standard of Thailand - 1978

付属資料1　基本設計調査団の編成

1.　基本設計調査団（１９８３年７月１０日～７月３０日）

（団　　長）	篠浦　烈	国際協力事業団無償資金協力部基本設計課、課長
（計画管理）	永井　南	国際協力事業団無償資金協力部基本設計課
（建築計画）	内牧俊一郎	㈱黒川紀章建築都市設計事務所
（建築設計）	波多野哲次	同上
（設備計画）	阿部良一	同上
（資機材計画）	久保田修平	同上

2.　ドラフトファイナルレポート説明チーム（１９８３年１０月２日～１０月１０日）

（団　　長）	遠藤英夫	国際協力事業団無償資金協力部　部長
（計画管理）	永井　南	国際協力事業団無償資金協力部基本設計課
（　同上　）	四釜嘉総	同上
（建築計画）	内牧俊一郎	㈱黒川紀章建築都市設計事務所
（建築設計）	波多野哲次	同上

付属資料2. 面接者リスト

1. Thammasat University

Prof. Nongyao Chaiseri	Rector
Dr. Phaisith Phipatanakul	Vice Rector for Academic Affairs
Archarn Banyat Surakanvit	Japanese Studies Center & Faculty of Economics
Dr. Ninnat Olanvoravuth	Assistant Rector, Foreign Relations
Dr. Likhit Dhiravegin	Faculty of Political Science
Archarn Pichet Maolanond	Faculty of Law
Mr. Prasert Chittiwatanapong	Political Science
Mr. Surachai Tumtavitikul	Faculty of Commerce and Accounting
Mr. Petcharee Sumitra	Faculty of Liberal Arts
Mr. Yupha Klangsuwan	Sociology
Mr. Rasdara Khantikul	Economics
Mr. Nanthavadi Chatratip	Political Science
Mr. Artorn Fungtammasau	Japanese Studies Institute
Mr. Chuchvall Poonbundhit	Japanese Studies Institute
Mr. Challee Mongrolratana	Architect, Campus Planning
Mr. Bussawate Poob	Campus Planning
Prof. Mongkol Sithitrai	Faculty of Engineering, Technology Institute of Technical & Vocational Education

2. Department of Public Works

Mr. Udomsak Vijaranakorn	Senior Architect
Mr. Mana Chotikapanich	Architect
Mr. Kilti Areeraksakul	Structural Engineer
Dr. Somsak Lertbannaphong	Structural Engineer
Mr. Suoiya Sutthitham	Sanitary Engineer
Mr. Hirun Bihircnsarn	Electrical Engineer
Mr. Voranit Chayaviwattanawong	Sanitary Engineer
Mr. Vichai Napombe, Jr.	Senior Architect

3. Kasetsart University

Dr. Sutat Sriwatanapongse	Vice Rector
Mr. Poom Khumgliang`	The National Extension and Training Center
Dr. Vichoi Korpraditskul	Dept. of Plant Pathology

4. The King Mongkut's Institute of Technology

Mr. Yasuichi Kaku	Japanese Expert, Faculty of Engineering
Mr. Yohichi Yajumura	Japanese Expert, Faculty of Engineering
Mr. Kamol Klongpitayapongs	Tropical Architecture, Faculty of Engineering

5. The Asian Institute of Technology

Mr. Nipon Masarisut	Director
Mr. Amphon Pitanilabut	Project Architect

6. Shinkharinwirot University, Bangsaen

Dr. Twee Hormchong	Dept. of Biology, Faculty of Science

7. Ministry of University Affairs

Mr. Athorn Chonhenchob	Permanent Secretary

8. Department of Technical and Economic Cooperation (DTEC)

Mr. Pracha Chaowashilp	Director Division II of External Cooperation
Mr. Sutin Susila	Member
Mr. Surayath Kungsadan	Member
Mr. Tirath Viputtikullavat	Member
Mr. Tiroj Itharattana	Member

9. タイ日経済技術振興協会　Technological Promotion Association (Thai-Japan)

Mr. Chaichalong Assavasena	Activity Manager 1
Mr. Katsumi Shiraishi	Advisor

10. 現地日本側関係者

在タイ日本国大使館	小木曽　本　雄	特命全権大使
	渡　辺　泰　造	公　　使
	久保田　　穣	参事官
	茂　田　　宏	参事官
	高　木　　剛	一等書記官
	近　藤　秀　明	一等書記官
	船　山　康　一	三等書記官
国際協力事業団 バンコック事務所	河　西　　明	所　　長
	富　本　幾　文	職　　員
国際交流基金 バンコック駐在員事務所	田　中　稔　久	所　　長
バンコック日本人商工会議所	内　田　由美子	秘　　書

付属資料３　調査日程表

1　基本設計調査団（１９８３年７月１０日～７月３０日）

日順	月日	曜日	行程	調査内容
1	7月10日	日	東京発 16:10 TG−741便 バンコク着 20:20	タマサート大学 Banyat Surakanvit 氏、富本ＪＩＣＡ事務所員の出迎え
2	11日	月	午前　日本大使館	表敬、打合せ 〔久保田参事官、高木一等書記官、他〕
			ＪＩＣＡ事務所	打合せ 〔河西事務所長〕 基本設計調査の目的説明、調査日程打合せ
			午後　DTEC (Department of Technical and Economic Cooperation)	表敬 基本設計調査の目的説明
			タマサート大学(T.U)	表敬 〔Nongyao Chaiseri 学長、Phaisith Phipatanakul 副学長、他〕 基本設計調査の目的説明、協力依頼
			バンコック市内レストラン	タマサート大学主催歓迎パーティ
3	12日	火	午前　タマサート大学ランシット新キャンパス内ヴォランセンター	タマサート大学新キャンパス計画についてのヒアリング 〔Department of Public Works−Udomsak Vijaranakorn K.氏、T.U−Banyat Surakanvit 氏、Chuchvali Poonbundhit 氏、他〕
			建設予定地	日本研究センター建設予定地調査
			午後　AIT (the Asian Institute of Technology)	AIT　キャンパス視察〔AITセンター、図書館、他〕
			ホテル	調査団打合せ
4	13日	水	午前　KMIT (the King Mongkuts Institute of Technology)	KMITキャンパス視察 〔Japanese Expert 加来氏の案内にて、講堂、図書館、電通棟、体育館、土木棟、他〕
			午後　タマサート大学	タマサート大学日本研究センター関係者との実質討議 〔インセプションレポートの説明、質問書についてのヒアリング、他〕
5	14日	木	午前　チュラロンコン大学	キャンパス視察 〔タマサート大学 Banyat Surakanvit 氏案内にて、Social Research Institute 視察〕
			大学庁	表敬 基本設計調査の目的説明〔Mr Athom Chonhenchob 他〕
			TPA （タイ日経済技術振興協会）	活動内容及び施設についてのヒアリング、視察
			国際交流基金 バンコック駐在員事務所	表敬、打合せ 基本設計調査の目的説明 田中所長
			午後　タマサート大学	日本研究センター関係者との実質討議 〔Phaisith Phipatanakul 副学長、Banyat Surakanvit 氏他、ミニッツ原案、質問書についての回答を中心とする打合せ〕
			バンコック市内書店	関係資料収集
			ホテル	KMIT 参考資料受理、団内閲覧
6	15日	金	午前　タマサート大学	日本研究センター関係者とミニッツ案内容について検討、キャンパス視察 〔L.L.教室他、オーディオヴィジュアル施設（日本政府文化無償施設）、日本語学科〕
			午後　カセサート大学	キャンパス視察 〔Deparsment of Plant Pathology、The National Agricaltural Extension & Training Center 他〕
			ＪＩＣＡ事務所	途中経過報告

日順	月 日	曜日	行　　程	調　査　内　容
7	7月16日	土	午前　Architet Associates 77 午後　ホテル	地元建築家との打合せ 〔タイ建築一般事情についての情報収集〕 資料整理
8	17日	日	午前　バンセン 午後　同　上 調査団後発員バンコック着 ホテル	海洋科学センター視察 阿部、久保田団員 調査団打合せ
9	18日	月	午前　タマサート大学 午後　タマサート大学 日本大使館 JICA事務所 タマサート大学 アンバサダーホテル	キャンパス視察 〔L.L.教室他日本政府文化無償施設〕 日本研究センター関係者との打合せ 〔ミニッツ案についての最終確認〕 Nongyao Chaiseri 学長と、篠浦調査団長の間でミニッツに署名 小木曾大使表敬　河西JICA所長報告 Banyat Surakanvit 氏および日本語学科教授との打合せ 〔日本研究センターの活動計画についての討議〕 〔調査団主催　夕食会〕
10	19日	火	午前 ホテル 午後　Architect Associate'77	団長帰国 調査団打合せ、資料整理 地元建築家との打合せ 〔タイ建築一般情報収集〕
11	20日	水	午前　ホテル 午後　Department of Public Works タマサート大学	資料整理 タマサート大学新キャンパス計画についての説明、質問書について各エンジニアよりのヒアリング 日本研究センターの活動計画についての実質討議
12	21日	木	午前　タマサート大学 午後　タマサート大学 日本大使館 ホテル	日本研究センター関係者全員との打合せ 〔日本研究センターの活動計画および Equipment についての実質討議〕 上記打合せについて再整理 〔タマサート大学側と Action Diagram 作成〕 渡辺公使　表敬 〔調査経緯報告他〕 調査団打合せ 〔調査項目整理、残留日程について〕
13	22日	金	午前　貿易研修センター 午後　タマサート大学 日本大使館JICA事務所	建設現場視察 〔久米事務所、間組現場事務所にて説明受ける〕 KMIT建築家Kamol Klongpitayapongs 氏との打合せ 〔KMIT土木科棟についての設計主旨他のヒアリング〕 永井団員帰国前報告
14	23日	土	午前 バンコック市内 午後　ホテル	永井団員帰国 タイ国建築一般事情視察 資料整理
15	24日	日	午前　バンコック市内 午後　同　上	タマサート大学Chuchvall Poonbundhit 氏案内によるバンコック市内の古建築視察
16	25日	月	午前　バンコック市内 午後　ホテル	建築一般事情視察 資料整理
17	26日	火	午前　ホテル 午後　バンコック市内(AA-77)	調査団打合せ　〔残留調査日程、調査項目の確認整理〕 建設工事費、建設に関する法的規制等調査

日順	月 日	曜日	行 程	調 査 内 容
18	7月27日	水	午前 Airport 午後 バンコック郊外 バンコック市内 日本商工会議所 ホテル	Work Shop 建設工事現場視察 Temple School 建設工事現場視察 Office & Shopping building 建設工事現場視察 資料収集 〔タイにおける3種類の典型的工事現場の視察により、建設技術他を確認〕 タマサート大学Banyat Surakanvit 氏 D.P.W.Udmsak Vijaranakorn氏 との打合せ 〔日本研究についての状況についての再整理〕 〔新キャンパスのインフラ計画について〕
19	28日	木	午前 新キャンパス内 ヴォランティアセンター 建設予定地 午後 AIT	設備関係（インフラ）引込みについてのチェック AITセンター、図書館視察 〔設備関係のメンテナンス状況、他〕
20	29日	金	午前 タマサート大学 ホテル 午後 ホテル	新キャンパス模型写真撮影 資料整理 調査団打合せ、帰国準備
21	30日	土	バンコック発 11:30 東京 20:00着 JL464	残留団員帰国

2　ドラフト・フィイナル・レポート説明チーム（１９８３年１０月２日〜１０月１０日）

日順	月日	曜日	行程	内容
1	10月2日	日	東京発 16：10 TG741便 バンコック着 20：20 ホテル	JICA四釜団員の出迎え 遠藤団長、タマサート大学Banyat Surakanvit氏の出迎えおよび予定の打合せ
2	3日	月	午前　日本大使館 JICA事務所 午後　タマサート大学 タマサート大学 ホテル	表敬およびドラフトレポート説明提出〔久保田参事官、茂田参事官および高木一等書記官〕 ドラフトレポート説明提出〔河西事務所長、富本事務所員〕 表敬およびドラフトレポート提出、基本設計図・模型についてのプレゼンテーション〔Nongyao Chaiseri学長、Phaisith Phipatanakul副学長、他〕 基本設計図についての詳細打合せ〔Phaisith Phipatanakul副学長、Banyat Surakanvit氏〕 団内打合せ
3	4日	火	午前　DTEC (Department of Technical & Economic Cooperation) 商工会議所 午後　大学庁 タマサート大学 ホテル	表敬およびドラフトファイナルレポート説明提出 ファイナルレポート用資料収集 表敬、ドラフトファイナルレポート説明 基本設計図についての詳細打合せ〔Phaisith Phipatanakul副学長、Dr.Likhit Dhiravegen氏、Banyat Surakanvit氏〕 団内打合せ
4	5日	水	午前　タマサート大学 午後　同　上 バンコック市内レストラン	ドラフトレポート、基本設計図についての詳細打合せ〔Phaisit Phipatanakul副学長、Banyat Surakanvit氏他主要全メンバー、Department of Public WorksよりUdomsak Vijaranakorn氏他エンジニア出席〕 同上およびミニッツ原案協議（本打合せにて、実質内容の検討がほぼ行われた。） タマサート大学主催　夕食会
5	6日	木	午前　タマサート大学 午後　大使館広報センター 国際交流基金 ホテル	基本設計図の詳細部について、タマサート大学側の建築家と協議〔Challee Mongrolratana氏〕 ファイナルレポート用資料収集、ヒアリング　〔船山氏〕 同　上　〔田中所長〕 団内打合せ
6	7日	金	午前　タマサート大学 昼食　同　上 午後　同　上 日本大使館 JICA事務所 バンコック市内	ミニッツについての最終確認 JICA主催昼食会 Nongyao Chaiseri学長と遠藤調査団長の間でミニッツに署名 ミニッツ署名の報告 建築一般事情資料再収集
7	8日	土	午前　ランシット新キャンパス 午後　バンコック市内 ホテル レストラン	敷地踏査〔タマサート大学Banyat Surakanvit氏〕 資料収集 団内打合せ Department of Public Works-Mr.Udomsak Vijaranakorn氏主催の夕食会〔Udomsak Vijaranakorn氏、Banyat Surakanvit氏、他〕
8	9日	日	午前 バンコック市内 午後	遠藤団長、四釜団員帰国 資料整理 家具関係コスト調査 団内打合せ、帰国準備
9	10日	月	バンコック発 9：35 KL861便 東京着 20：20	残留団員〔内牧、波多野〕帰国 永井団員は別便にて、同日タイ出国

付属資料4　ミニッツ

1. 基本設計調査

MINUTES DISCUSSION

ON

ESTABLISHMENT OF JAPANESE INSTITUTE

OF

THAMMASAT UNIVERSITY

IN

THE KINGDOM OF THAILAND

In response to the request made by the Government of the Kingdom of Thailand for the establishment project for Japanese Studies Institute of Thammasat University in Rangsit Campus, Prathumthani Province (hereinafter referred to as "the Project"), the Government of Japan, through Japan International Cooperation Agency (JICA) has dispatched a Basic Design Study Team headed by Mr. Tadashi SHINOURA, Head, Basic Design Division, Grant Aid Department, JICA, (hereinafter referred to as "the Team") to conduct the Basic Design Study on the Project from July 10th to July 30th, 1983.

The Team has carried out a field survey, had series of discussions and exchanged views with Thai Government Authorities concerned with the Project.

As a result of the study and discussions. both parties have agreed to recommend to their respective Government to examine the result of study attached herewith towards the realization of the Project.

Bangkok, July 18th,1983

Tadashi SHINOURA
Team Leader

Prof.Nongyao Chaiseri
Rector of Thammasat University

ATTACHMENTS

1. The objective of the Project is to provide necessary building, facilities and equipment for establishment of Japanese Studies Institute of Thammasat University in Rangsit Campus, Prathumthani Province.

2. The proposed site of the Project has been acquired by the Government of Thailand (hereinafter referred to as "the Project Site") as attached in Annex 1.

3. The Japanse Study Team will convey to the Government of Japan the desire of the Government of Thailand that the former takes necessary measures to co-operate in implementing the Project and provides necessary facilities and other items as listed in Annex II within the scope of Japanese economic cooperation in grant form.

4. The Government of Thailand has understood Japan's Grant Aid system explained by the Team which includes a principle of use of a Japanese consultant firm and Japanese general constructior for implementation of the Project.

5. The Government of Thailand will take necessary measures as listed in Annex III on condition that Grant Assistant by the Government of Japan is extended to the Project.

N. Chaisiri

Annex II

Items required by the Government of Thailand whose cost will be borne by the Government of Japan.

1) Construction of Japanse Studies Institute facilities

   a. Japanese Studies Offices
   b. Research Section
   c. Sound Lab Section
   d. Library Section
   e. Seminar-Meeting Section
   f. Hostel Section
   g. Others

2) Equipment

   a. Printing and Duplication Equipment
   b. Audio Visual Equipment
   c. Sound-Lab Equipment
   d. Library Equipment
   e. Seminar-Meeting Equipment
   f. Wagon
   g. Others

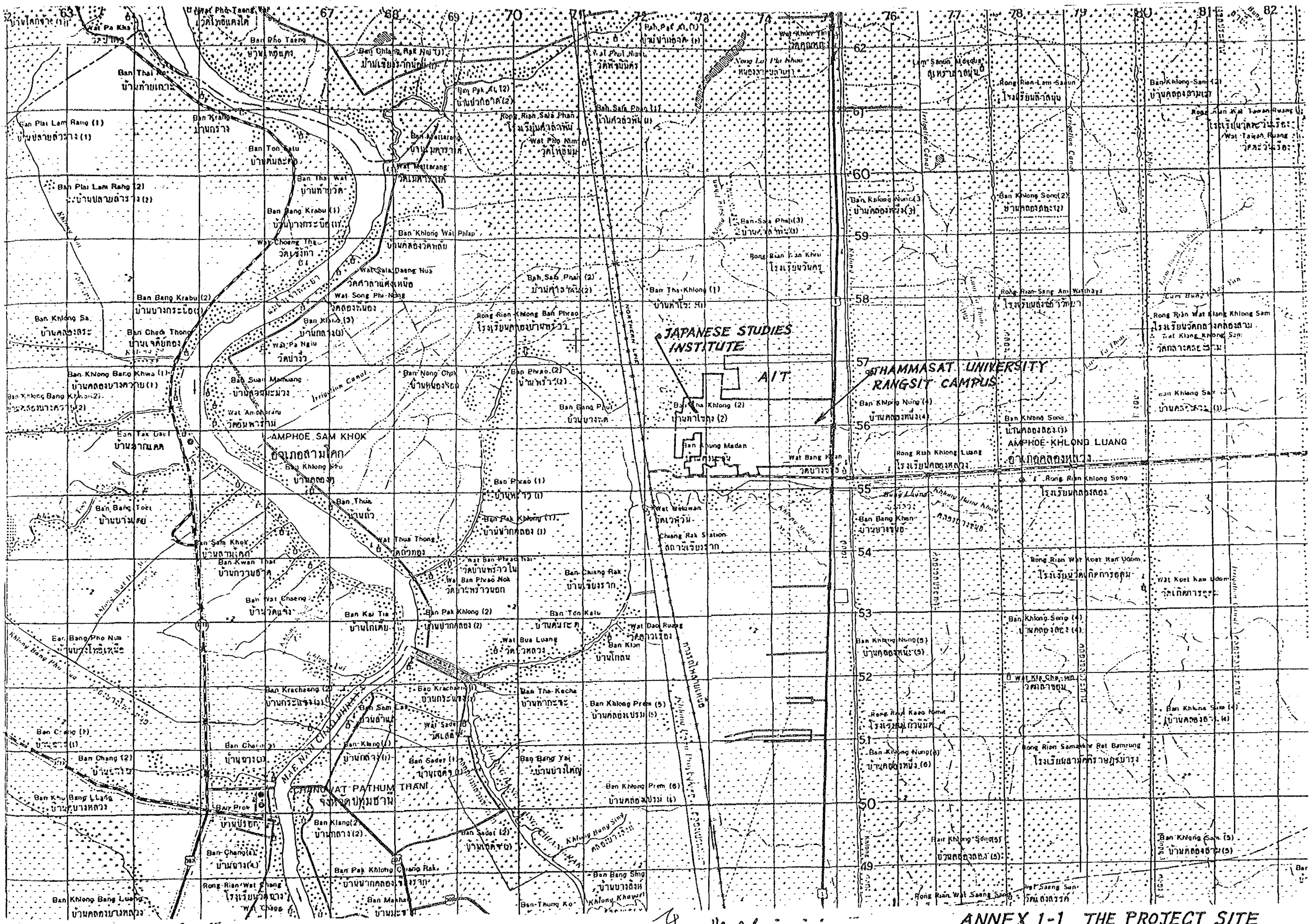
N. Chaisiri

Annex III

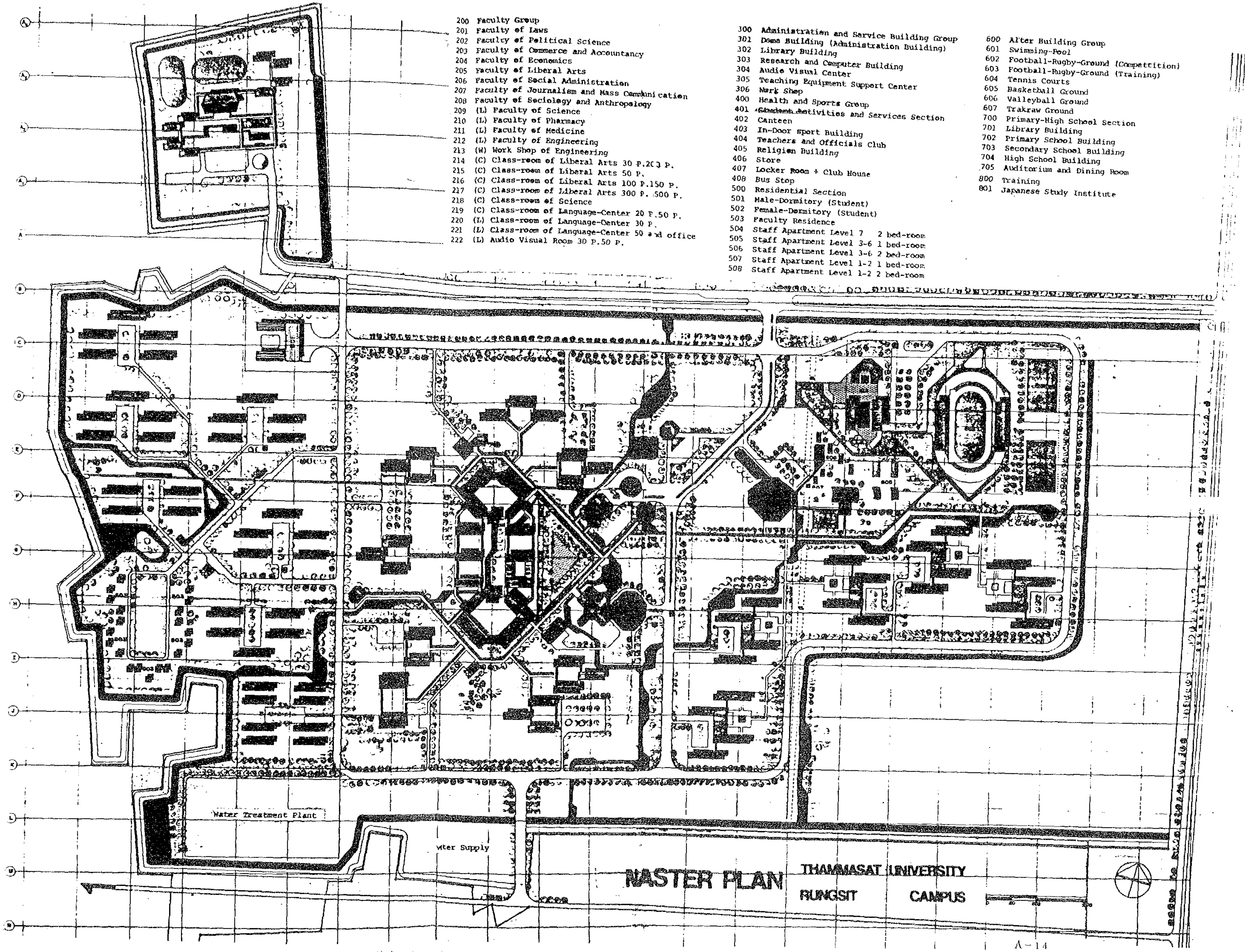
Following arrangements will be required to be taken by the Government of Thailand.

1. To provide necessary data for basic design such as water quality analysis, land survey and condition of sub-soil, by end of July 1983.
2. To carry out site preparation such as clearing, filling, leveling and access road before commencement of construction works.
3. To provide facilities for distribution of electricity, water supply, drainage, telephone lines and other incidental facilities to the proposed site.
4. To ensure prompt unloading, tax exemption, customs clearance at ports of disembarkation in Thailand and prompt internal transportation therein of the products purchased under the grant.
5. To exempt Japanese nationals from customs duties, internal taxes and other fiscal levies which may be imposed in Thailand with respect to the supply of the products and services under the verified contracts.
6. To accord Japanese national whose services may be required in connection with the supply of the products and the services under the verified contract such facilities as may be necessary for their entry into Thailand and stay therein for the performance of their work.
7. To maintain and use properly and effectively the facilities constructed and equipment purchase under the grant.
8. To undertake incidental civil works such as gardening, fencing, gates, guard house, garage, and exterior lighting.
9. To furnish general furniture for the Institute.

N. Chaisri



ANNEX 1-1 THE PROJECT SITE


200 Faculty Group
201 Faculty of Laws
202 Faculty of Political Science
203 Faculty of Commerce and Accountancy
204 Faculty of Economics
205 Faculty of Liberal Arts
206 Faculty of Social Administration
207 Faculty of Journalism and Mass Communication
208 Faculty of Sociology and Anthropology
209 (L) Faculty of Science
210 (L) Faculty of Pharmacy
211 (L) Faculty of Medicine
212 (L) Faculty of Engineering
213 (W) Work Shop of Engineering
214 (C) Class-room of Liberal Arts 30 P.200 P.
215 (C) Class-room of Liberal Arts 50 P.
216 (C) Class-room of Liberal Arts 100 P.150 P.
217 (C) Class-room of Liberal Arts 300 P. 500 P.
218 (C) Class-room of Science
219 (C) Class-room of Language-Center 20 P.50 P.
220 (L) Class-room of Language-Center 30 P.
221 (L) Class-room of Language-Center 50 and office
222 (L) Audio Visual Room 30 P.50 P.
300 Administration and Service Building Group
301 Dome Building (Administration Building)
302 Library Building
303 Research and Computer Building
304 Audio Visual Center
305 Teaching Equipment Support Center
306 Work Shop
400 Health and Sports Group
401 Student Activities and Services Section
402 Canteen
403 In-Door Sport Building
404 Teachers and Officials Club
405 Religion Building
406 Store
407 Locker Room + Club House
408 Bus Stop
500 Residential Section
501 Male-Dormitory (Student)
502 Female-Dormitory (Student)
503 Faculty Residence
504 Staff Apartment Level 7 2 bed-room
505 Staff Apartment Level 3-6 1 bed-room
506 Staff Apartment Level 3-6 2 bed-room
507 Staff Apartment Level 1-2 1 bed-room
508 Staff Apartment Level 1-2 2 bed-room
600 Alter Building Group
601 Swimming-Pool
602 Football-Rugby-Ground (Competition)
603 Football-Rugby-Ground (Training)
604 Tennis Courts
605 Basketball Ground
606 Valleyball Ground
607 Trakraw Ground
700 Primary-High School Section
701 Library Building
702 Primary School Building
703 Secondary School Building
704 High School Building
705 Auditorium and Dining Room
800 Training
801 Japanese Study Institute
Water Treatment Plant
Water Supply
MASTER PLAN
THAMMASAT UNIVERSITY
RUNGSIT CAMPUS

2. ドラフトファイナルレポート説明

MINUTES OF DISCUSSIONS

The Draft Report of the Basic Design Study on the Establishment of Japanese Studies Institute of Thammasat University , Bangkok, Thailand

At the request of the Government of Kingdom of Thailand for grant aid for the Establishment of Japanese Studies Institute of Thammasat University , the Government of Japan dispatched a Mission to carry out the Basic Design Study (hereinafter referred to as " the Study ") on the Establishment of Japanese Studies Institute of Thammasat University (hereinafter referred to as " the Project ") through Japan International Cooperation Agency (JICA) from July 10th to July 30th, 1983.

The Mission carried out a field survey and had a series of discussions with the authorities concerned of the Government of Thailand.

As a result of these survey and discussions, JICA prepared and submitted a Draft Final Report on the Study and dispatched a Mission to explain and discuss on this Report starting from October 2nd. to 10th October 1983.

Both parties had a series of discussions on the Report and have agreed to recommend to their respective Governments that the major points of understanding reached between them, attached herewith, should be examined toward the realization of the Project.

October 7th, 1983

Bangkok.

H. Endo

Mr. Hideo Endo

Leader of the Mission

JICA

Nongyao Chaiseri

Professor Nongyao Chaiseri

Rector

Thammasat University

MAJOR POINTS OF UNDERSTANDING

BASIC DESIGN

1. Thai side principally has agreed to the basic design proposed in the Draft Final Report.

2. The Final Report (10 copies in English) on the Project will be submitted to Thai side by the end of November 1983.

3. Major undertakings to be taken by both Governments for construction of the institute are shown in annex 1

H.S.　　　　　　　　　　　　N. Chaisiri

Major undertakings to be taken by both Government

		Japanese side	Thai side
1.	To secure a lot of land		0
2.	To clear, level and reclaim the site		0
3.	To construct the gate and fence in and around the site		0
4.	To construct the parking lot and develop the landscape in the site		0
5.	To construct the road		
	1) Within the site	0	
	2) Outside the site		0
6.	To construct the building	0	
7.	To provide facilities for distribution of electricity, water supply, drainage and other incidental facili - ties		
	1) Electricity		
	a. Distributing line to the site		0
	b. Drop wiring and internal wiring within the site	0	
	c. Main circuit breaker and transformer	0	

HE.

N. Chotsin

		Japanese side	Thai side
	2) Water Supply		
	a. City water distribution main to the site		0
	b. Supply system within the site (receiving and elevated tanks)	0	
	3) Drainage		
	a. Drainage city main (for storm, sewer and others) to the site		0
	b. Drainage system (for toilet sewer, ordinary waste, storm drainage and others) within the site	0	
	4) Telephone System		
	a. Telephone trunk line to the main distribution frame / panel (MDF) of the building		0
	b. MDF and the extension after the frame / panel	0	
	5) Furniture and Equipment		
	a. Furniture for office		0
	b.Project equipment and furniture for public facilities and rooms	0	

H.S.

N. Chaiseri

		Japanese side	Thai side
8.	To bear the following commissions to the Japanese foreign exchange bank for the banking services based upon the B/A		
	1) Advising commission of A/P		0
	2) Payment commission		0
9.	To ensure unloading and customs clearance at port disembarkation in recipient country		
	1) Marine (Air) transportation of the products from Japan to the recipient country	0	
	2) Tax exemption and customs clearance Of the products at the port of disembarkation		0
	3) Internal transportation from the port of disembarkation to the project site	0	
10.	To accord Japanese nationals whose services may be required in connection with the supply of the products and the services under the verified contract such facilities as may be necessary for their entry into recipient country and stay therein for the performance of their work		0
11.	To maintain and use properly and effectively that the facilities constructed and equipment purchased under the Grant		0
12.	To bear all the expenses other than those to be borne by the Grant		0

HG.

N. Chaisri

JAPANESE STUDIES CENTER
THAMMASAT UNIVERSITY. BANGKOK 2.
Tel. 2216111 - 20 EXT. 213

Activities and Facilities

of

Japanese Studies Institute

of

Thammasat University

1. Seminar 1

1-1 Annual symposium

· Participants	120 person
· Term	2 days/year
· Facilities provided	
Seminar room with interpreter unit	(capacity 120)
Training room	(30 person x 4)
Seminar room	20 + 10
Hostel + Canteen	2 days and 3 nights
Library	

1-2 International conference

· Participants	60 - 80 person
· Terms	3 days/year
· Facilities provided	
Seminar room with interpreter unit	(capacity 120)
Training room	(30 x 2)
Hostel + Canteen	3 days/4 nights
Library	

1-3 Current issues seminar

· Participants	40 - 60 person
· Terms	1 - 2 days (Four times per year)
· Facilities provided	
Seminar room with interpreter unit	(capacity 120)
Training room	(30 x 2)
Hostel + Canteen	-2 days/2-4 nights

Seminar 2

1-4 Regular seminar

· Participants	20 - 40 person
· Terms	1/2 - 1 day monthly
· Facilities provided	
Training room	(cap 30 x 2)
Hostel Canteen	1 day/1 night

1-5 Public Lecture

· Participants	30 - 120 person
· Terms	1/2 - 1 day 6 times per year
· Facilities provided	
Seminar room with interpreter unit	(capacity 120)
Training room	(30 person 4)
Hostel Canteen	1 day/1 night
Library	

2. Training 1

2-1 General knowledge about Japan

· Participants	20 - 40 person
· Terms	5 days 3 courses/year
· Facilities provided	
Training room	(capacity 30 x 2)
Sound - lab section	
Library	
Hostel + Canteen	5 days/6 nights

2-2 Japanese language

2-2-1 Basic course

• Participants	30 - 40 person
• Terms	3 months or 72 hours
	(3 days/week 2 hours/day)
	2 courses/year
• Facilities	
Training room	30 person
Sound - lab	
Library	
Canteen	

2-2-2 Advance Japanese language

• Participants	20 - 30 person
• Terms	3 months or 36 hours
	(once/week/3 days/day)
• Facilities provided	
Training room	
Sound - lab	
Library	
Canteen	

2-2-3 Professional or special course

• Participants	10 - 30 person
• Terms	3 months or 72 hours
	2 courses/year
• Facilities provided	
Training room	
Sound - lab	
Library	
Canteen	

Training 3

2-3 Japanese language teacher

· Participants	20 - 30 person
· Terms	5 days
	3 courses per year
· Facilities provided	
Training room	
Sound - lab	
Library	
Hostel + Canteen	5 days/6 nights

2-4 Japanese language intensive course 1

· Participants	20 - 30 person
· Terms	two weeks - 4 courses/year
· Facilities provided	
Training room	
Sound - lab	
Library	
Hostel + Canteen	14 days / 15 nights

2-5 Japanese language intensive Course 2

· Participants	20 - 30 person
· Terms	one month
	2 courses/year

· Facilities provided

serve as Japanese language intensive course 1

Training 4

2-6 Thai Studies for Japanese

• Participants	15 person
• Terms	3 days/4 course/year
• Facilities provided	
Seminar room with interpreter unit	
Sound - lab	
Library	
Hostel + Canteen	3 days/4 nights

3. Plan for personnel/studies exchange program

3-1 Student exchange program - Thai - Japan

• Participants	Japanese 20 person
• Terms	7 days
	2 times/year
• Facilities provided	
Seminar room with interpreter unit	
Library	
Training	
Sound - lab	
Hostel + Canteen	7 days/8 nights

3-2 Personnel exchange program

• Participants	6 persons/year
• Terms	3 month - 1 year
• Facilities provided	
Seminar room with interpreter unit	
Library	
Sound - lab	
Hostel + Canteen	6 days/7 nights
Conference room	
Research room	

4. Occassional Activities

4-1 Exhibition on Japanese Culture

- Tea ceremony, Ikebana, Japanese dance

· Participants	20 - 120 person
· Terms	2 time/year
· Facilities provided	
Seminar room	(capacity 120)
Japanese room	
Japanese garden	

4-2 Film show on Japan

· Participants	60 - 100 person
· Terms	6 time/year
. Facilities provided	
Seminar room	(120)

4-3 Japanese Speech Contest for the student

· Participants	120 person
· Term	once/year
· Facilities provided	
Seminar room	(120)

5. Plan for Publications

J.S.I. will carry out the following publications

(1)	Book	5-10 Volumes/year
(2)	Research report	5-10 Volumes/year
(3)	Journal	4 Volumes/year
(4)	Thai-Japanese Studies Journal	4 Volumes/year
(5)	Newsletter	12 Volumes/year
(6)	Leaflet and Poster	30 Pieces/year
(7)	Seminar paper and documents	80 Volumes/year
(8)	Japanese language text	2 Volumes/year
(9)	Thai-Japanese Dictionary	1 Volume
(10)	Forms and other service	30 Volumes/year

6. Plan for collecting documents and reference books

J.S.I. will establish a Japanese Studies documents center in its library. About 10,000 copies of books and documents will be collected and 5,000 copies of reference works as well as some periodical journals.

7. Dissemination of knowledge on Japan and Japanese by radio and television program

7.1 Radio program on Japanese language and subject about Japan will be broadcast for a period of 30 minutes once a week

7.2 Video program on Japan will be show in some special occasions

The Japanese Studies Institute has as its program for the promotion of publication on Japanese studies for the year 1983 as follows:

Publications:

1. Textbooks The Institute will publish a textbook entitled "Japanese Economics" by Banyat Surakanvit and Rasdara Khantigul

2. Translation Translation and publication of the following three books will be undertaken for the coming year:-

2.1 Gakumon No Susume by Fukuzawa Yukichi to be translated and edited by Kamchai Laisappasiri

2.2 Japan As No.1 by E.F. Vogel, translation to be designated

2.3 The Broken Command by Shimazaki Toson, translator to be designated.

3. Books The Institute will publish a book on Japanese Literature by Artorn Fungtammasan

4. Research Reports two research reports in English are to be published

4.1 "Japanese Studies in Thailand" by Banyat Surakanvit

4.2 "Transfer of Technology" by Banyat Surakanvit.

5. Scholarily Jounals

5.1 The Institute will be partly responsible for the editing of the journal Tawan, a semi-Scholarily journal of Thai-Japanese Association. Contribution of the Institute will be in the form of helping with the editorial staff.

5.2 The Institute may undertake the task of producing the Thai-Japanese Studies, a journal sponsored by the Japan Foundation. Negotiations on the matter are in the process.

6. Supplementary Reading

A supplementary reading for the course Political Science 437 "Problems of the Modernization of Japan" will be published. The book, entitled Japan up to 1868: Preconditions for Modernization, was written by Dr. Likhit Dhiravegin

Publicity:-

Publicity of the Institute and its activities will take two forms, regular activities and occasional activities. Regular activities will be carried out intermitten by while occasional activities will be carried out when the Institute decides they are appropriate.

1. Occasional Activities

1.1 Exhibition

An exhibition will be organized around November The features to be covered are arts, Culture and development of new technology. The exhibition is to be carried out in co-operation with the Japanese Language Department Faculty of Liberal Arts.

The trade fair will also be included in the exhibition.

1.2 Shows In order to have cultural exchange, the Institute will arrange to have the Okinawa shown in Bangkok around late December.

1.3 Contest In order to encourage participation in the activities of the Institute for the interested public, there will be the following contest.

a. A Japanese Speech giving contest will be held for Thammasat University students around September this is to be carried out with the Co-operation of the Japanese Language Department, Faculty of Liberal Arts.

b. Children's drawing contest under to topic of "The Cartoon which I like" will be held announcement of the contest will be made about early March the dateline for sending in drawing far the contest is around the middle of April. Results of the contest will be announced on May 2.

1. Publicity through Mass Media

1. Dissemination of knowledge by Radio and Television Program

1.1 Radio Program The Institute will organize a radio broadcast once a week. It will fall on Friday from 8.35 P.M. to 8.55 P.M.A.M., frequency 181 KHz. The program will consist of Japanese language instruction (with a supplementary text handed out to the audience by mail) "odds and ends" subject about Japan. There will also be songs of various nations to be broadcast on special occasions. For example, Japanese Children's day, Japanese National Day.

1.2 Television Program Attempts will be made to negotiate with the existing program to incorporate the Institute activities.

2. Publicity of the Institute's Activities

Publicity of the Institute's activities will be made through the mass media and the related agencies. Articles publicizing the Japanese Studies Institute will be sent to Matupoom and Matichon dailies every month.

3. Newsletter Newsletter focusing on the Activities accomplishments, interesting information, short Articles will be published, an issue per month the first issue will come out in April. This is a service far members, the public and the agencies concerned with the Institute.

TENTATIVE ANNUAL SCHEDULE OF ACTIVITIES OF JAPANESE STUDIES INSTITUTE

Activities	Persons	Month 6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	Hostel + Canteen
1. Seminar														
1–1 Annual symposium	120								2 days ■					2 days ○ 3 nights
1–2 International conference	60~80				3 days ■									3 ○ 4
1–3 Current issues seminar	40~60	1~2days ■				■		■						1~2 ○
1–4 Regular seminar	20~40	■	■	■	■	■	½~1day ■	■	■	■	■	■	■	2~4 ○ 1
1–5 Public lecture	30~120		½~1day ■		■		■		■		■			○ 1
2. Training														
2–1 General knowledge about Japan	20~40		5 days ■							■	■			5 ○ 6
2–2 Japanese language training														
(1) Basic course	30~40	□ →	→	→ □		3 months or 72 hours □ →	→	→ □						
(2) Advance course	20~30				□ →	3 months or 72 hours →	→	→ □		□ →	→	→ □		
(3) Professional and special course	10~30		3 months or 72 hours □ →	→	→ □				□ →	→	→ □			
2–3 Japanese language teacher training course	20~30	■			■							□		5 ○ 6
2–4 Intensive course 1	20~30	■				2 weeks ■			■				■	14 ○ 15
2–5 Intensive course 2	20~30			1 month ■ →	→ ■							■		○
2–6 Thai studies for Japanese	15			■			3 days ■			■			■	3 ○ 4
3. Personnel and student exchange program														
3–1 Student exchange program	Japanese 20		7 days ■								□			7 ○ 8
3–2 Personnel exchange program			■ →	→	→	→	3 months – 1 year →	→	→	→	→ ■			○
4. Occassional Activities														
4–1 Exhibition on Japanese culture	20~120		□									□		
4–2 Film show	60~100	□		□		□		□		□		□		
4–3 Japanese speach contest for student	120					□								
5. Publication														
5–1 Book translation														
5–2 Research report														
5–3 Journal				□			□			□			□	
5–4 Thai – Japanese Studies Journal		□			□			□			□			
5–5 News letter		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	
5–6 Leaflet poster														
5–7 Seminar paper														
5–8 Japanese language text														
5–9 Thai – Japanese Dictionary														
6. Plan for collecting documents and reference books		□ →	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→ □	
7. Disemination of knowledge on Japan		□ →	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→ □	
8. Studies		□ →	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→ □	○

付属資料6　タマサート大学ランシット新キャンパス建設計画の概要

現在タマサート大学はバンコックの都心、王宮の近くで、西側をチャオプラヤ河に面してあり、すでに建物が所狭しと建っている状態である。近年学生数が増加しているものの増築は不可能であることと、将来理工学部や医学部等の学部新設が計画されていることなどから、大学は政府機関のDepartment of Public Worksと協同でランシット新キャンパス・マスタープランを作成した。その工事はすでに開始されている。

キャンパス計画の概要は次の通りである。

1　キャンパスの概況

(1) 位　　置

キャンパスはパトンタニ県ランシット地区でバンコックの北方約45kmにありその東側を国道1号線に、西側をバンコックから北に伸びる鉄道に接している。また北側は道路をはさんでアジア工科大学（AIT）と接している。

(2) 敷　　地

東西方向約2300 m、南北方向約1000 mで約1500 Rai（240ha）の面積をもつ。敷地は、もともと稲作地であったが、現在は造成され、構内道路の基盤整備がほぼ完了している。

(3) 学　　部

現在、商業会計、経済政治、法、教養、マスコミ、社会行政の7学部、社会人類の1学科であるが、更に理、工、医、薬の4学部が新設され計12学部、大学生10,000人の総合大学へと発展することになる。なお、現キャンパスは、大学院大学として残る。

2　マスタープラン

タマサート大学とDepartment of Public Worksとは日本研究センター建設計画が立案される以前に、土地利用計画、施設配置計画、段階計画およびインフラストラクチャ計画を作成している。

(1) 土地利用計画

新キャンパスを次のようにゾーニングしている。

(1)	Academic Zone	中央部、管理棟、学部棟、図書館
(2)	Housing Zone for Staff	西部、教職員住宅
(3)	Dormitory Zone	南　学生5,000人収容
(4)	Sports Zone	北東
(5)	Primary School Zone	北西
(6)	Hospital Zone	南東

(2) 施設配置計画

土地利用計画にもとづいて、各施設が風向を重視して建物軸を東西にして配置されている。これらを結ぶ通路は歩車道分離を原則としている。各建物を結ぶ歩行用のペデントリアンウェイは日射及び雨に対する配慮から屋根付の吹放し廊下とし、屋根下には給水、電気等のパイプ類が設置される予定である。また幹線道路は幅員15～20mで、各ゾーンの外側にめぐらされ、そこから必要に応じて分岐した支線によって各施設にアプローチされている。

キャンパスの周辺には雨水排水処理のためクロング(運河)がめぐらされ、各ゾーンに入り込んで池となり快適なランドスケープを作り出している。

(3) 建設計画

マスタープランにもとづいて建設は段階的に実施される。第1期工事は、1986年までには幹線道路のほか建物としては、管理棟、学部教室棟、図書館、教職員住宅、学生寮、スポーツ棟、ポンプ施設等が建設される予定である。

(4) インフラストラクチャ計画

a) 給　水

キャンパス内に深井戸を掘り、キャンパス南端に給水塔を含む給水施設を設けて、各施設に給水する。

b) 排　水

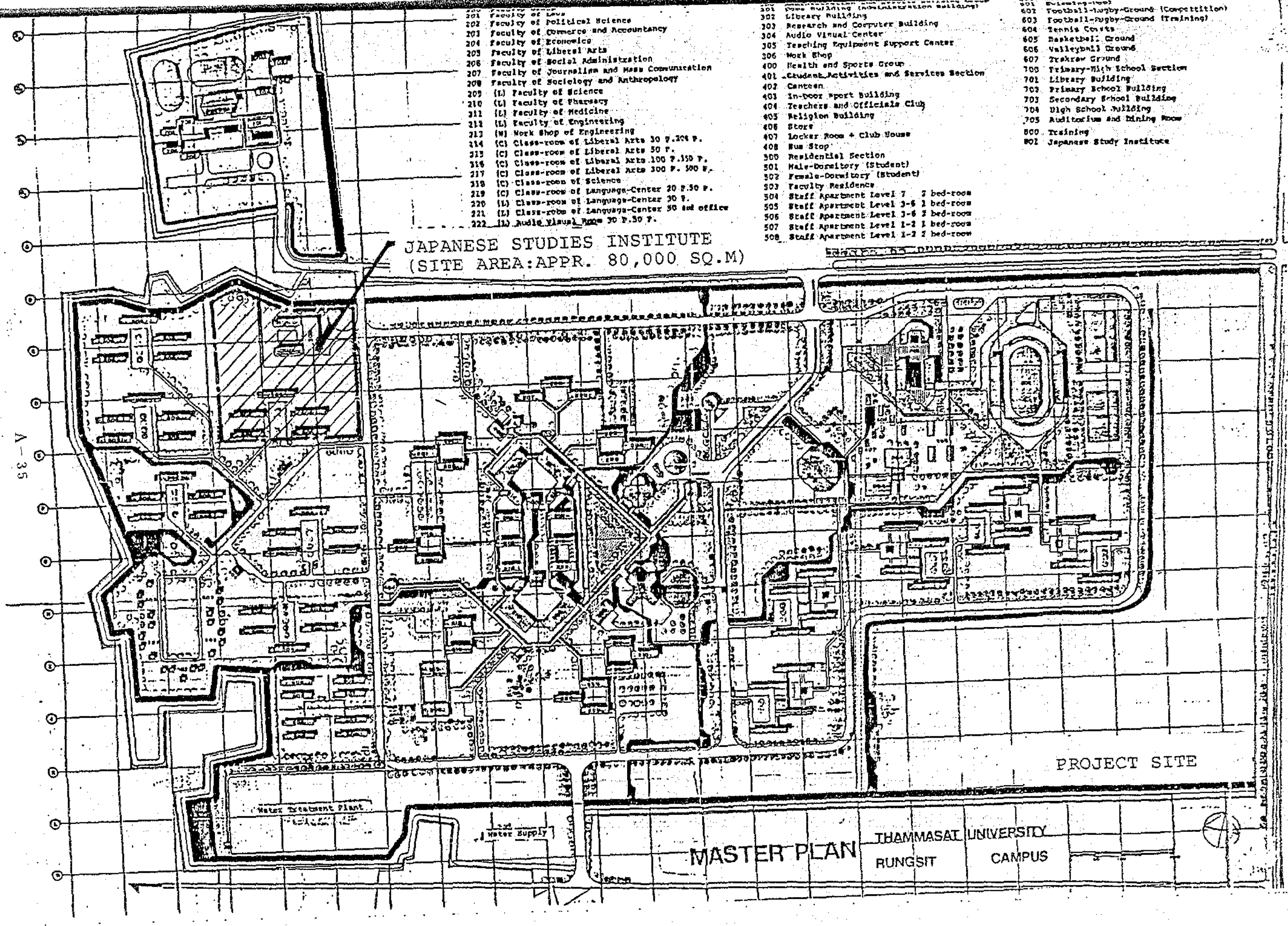
各施設からの排水はキャンパス南西端の排水処理施設に集められて、処理後キャンパス外に放流される。

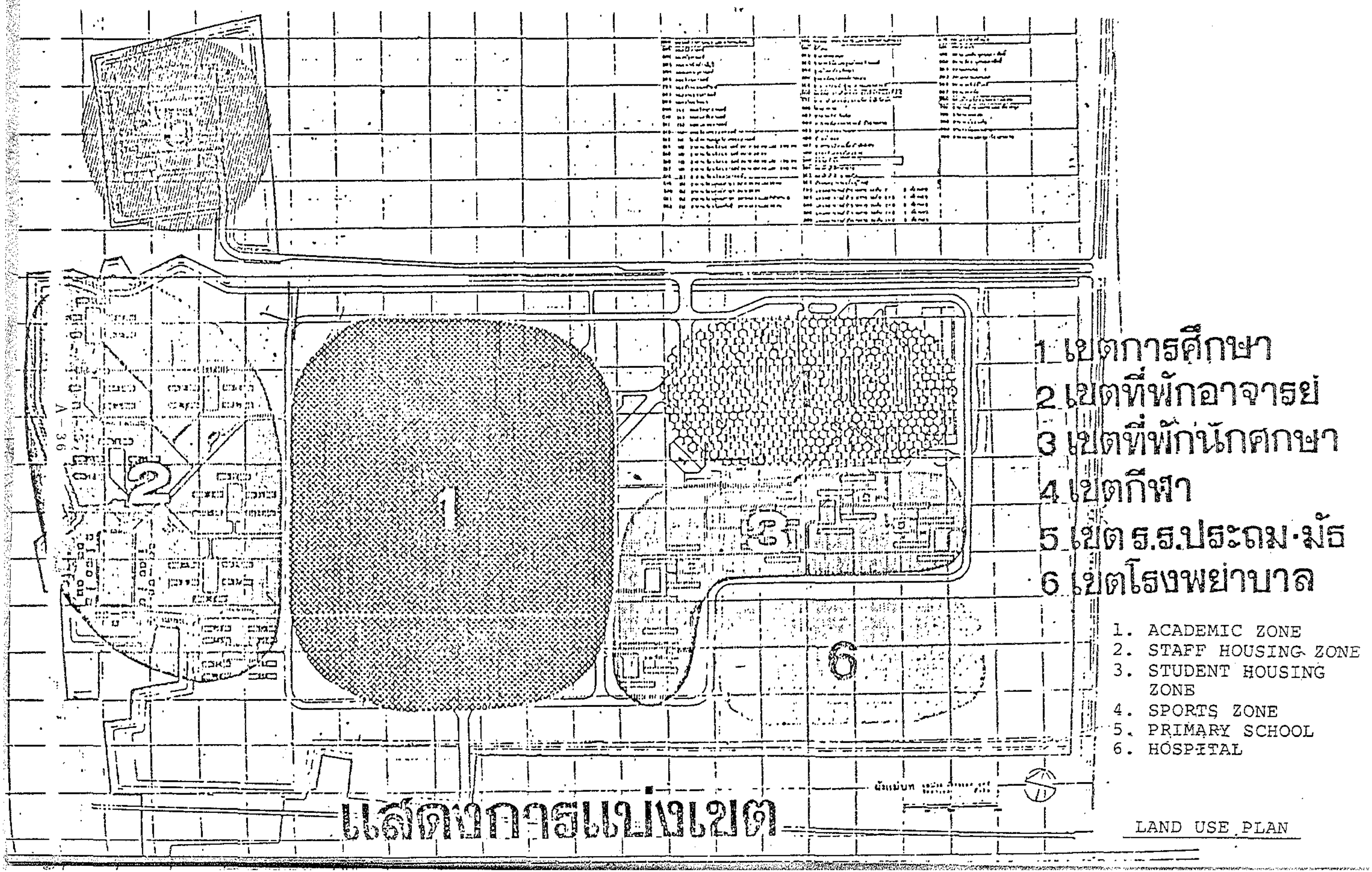
c) 雨水排水

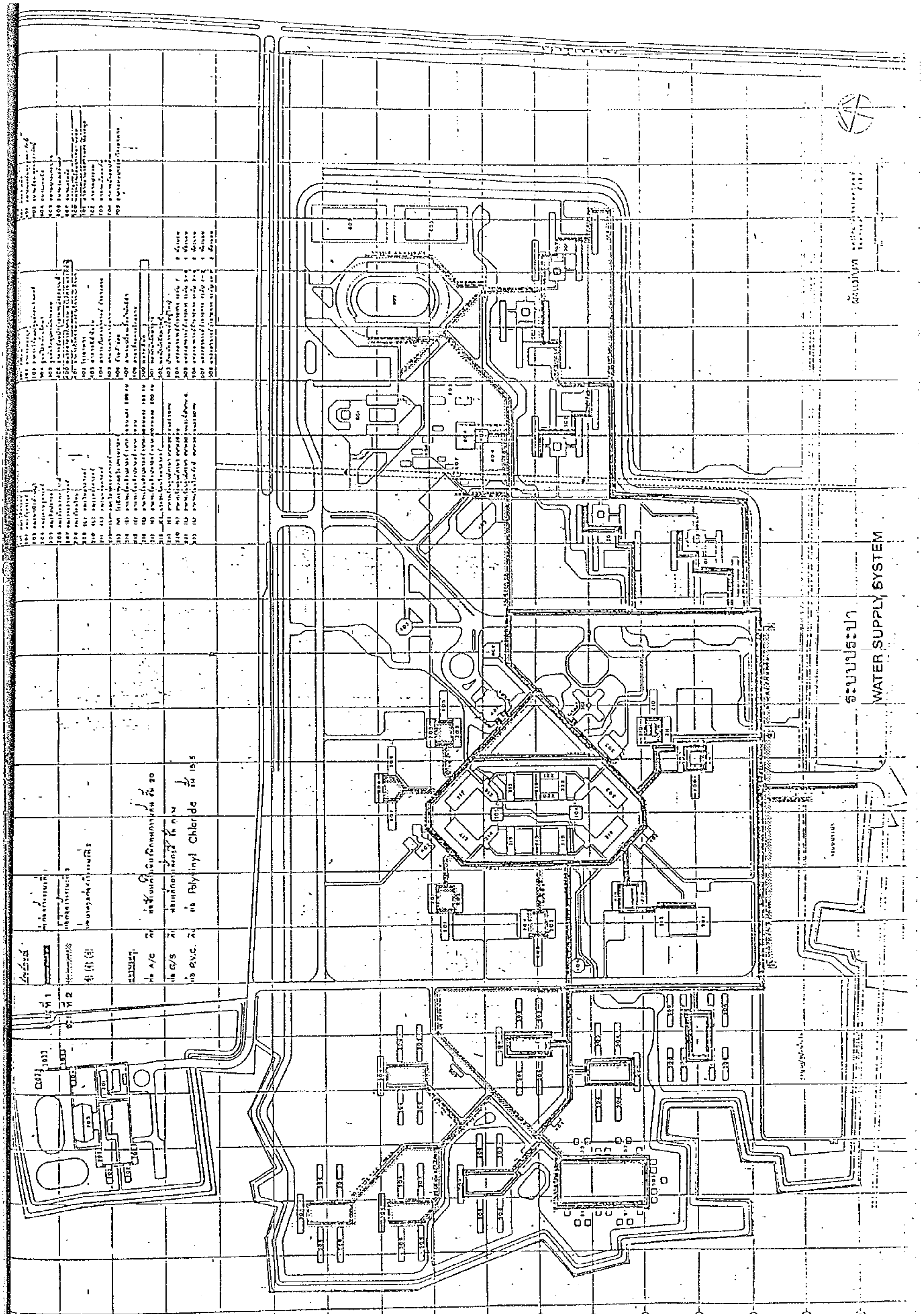
道路、施設の雨水はキャンパス周辺のクロングとキャンパス内の池に排水される。

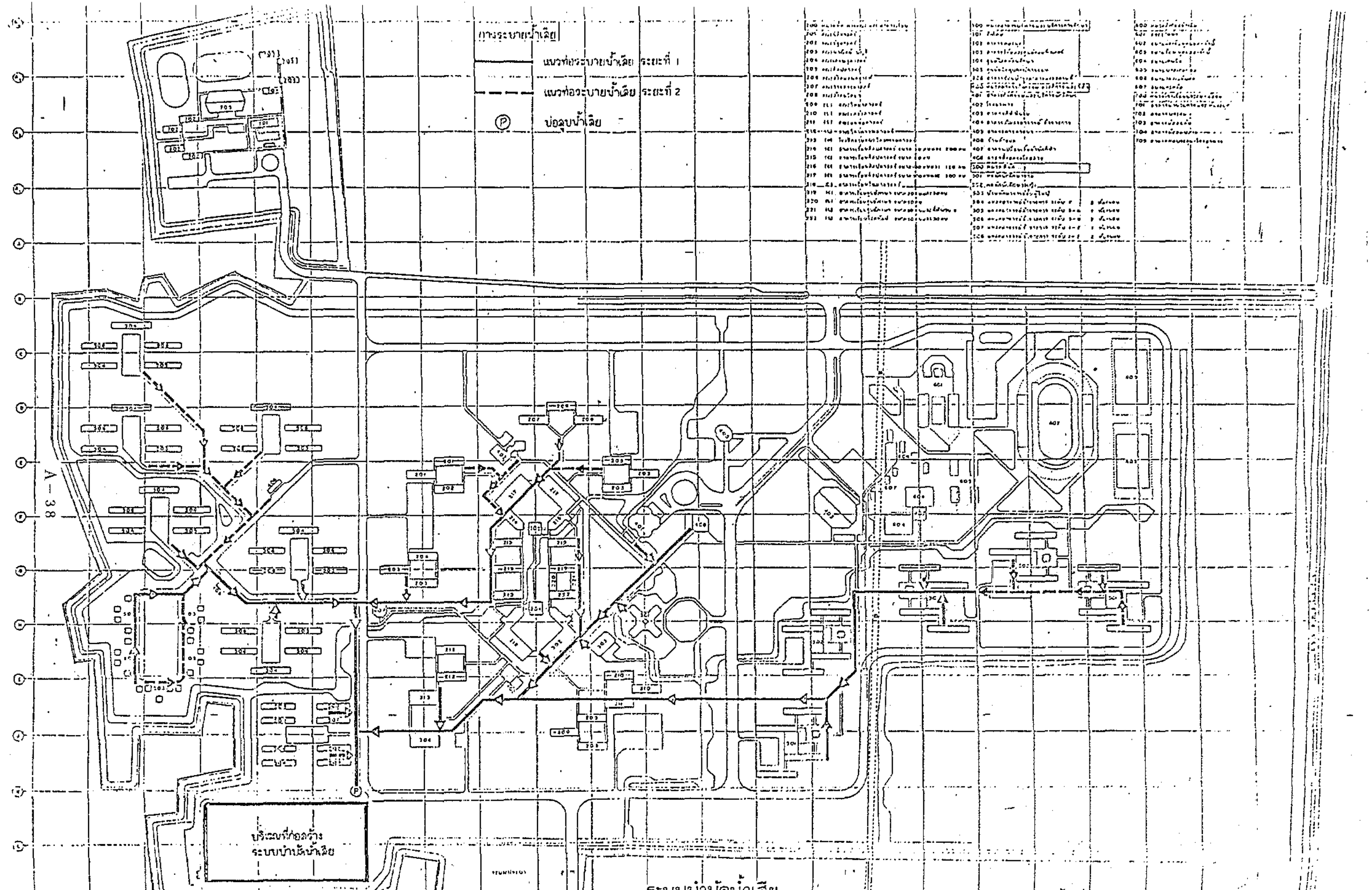
d) 電　力

電力は、国道1号線沿いに布設されている三相三線50Hz22KVより分岐取出し、各ブロック毎に設けた変電所より供電される。

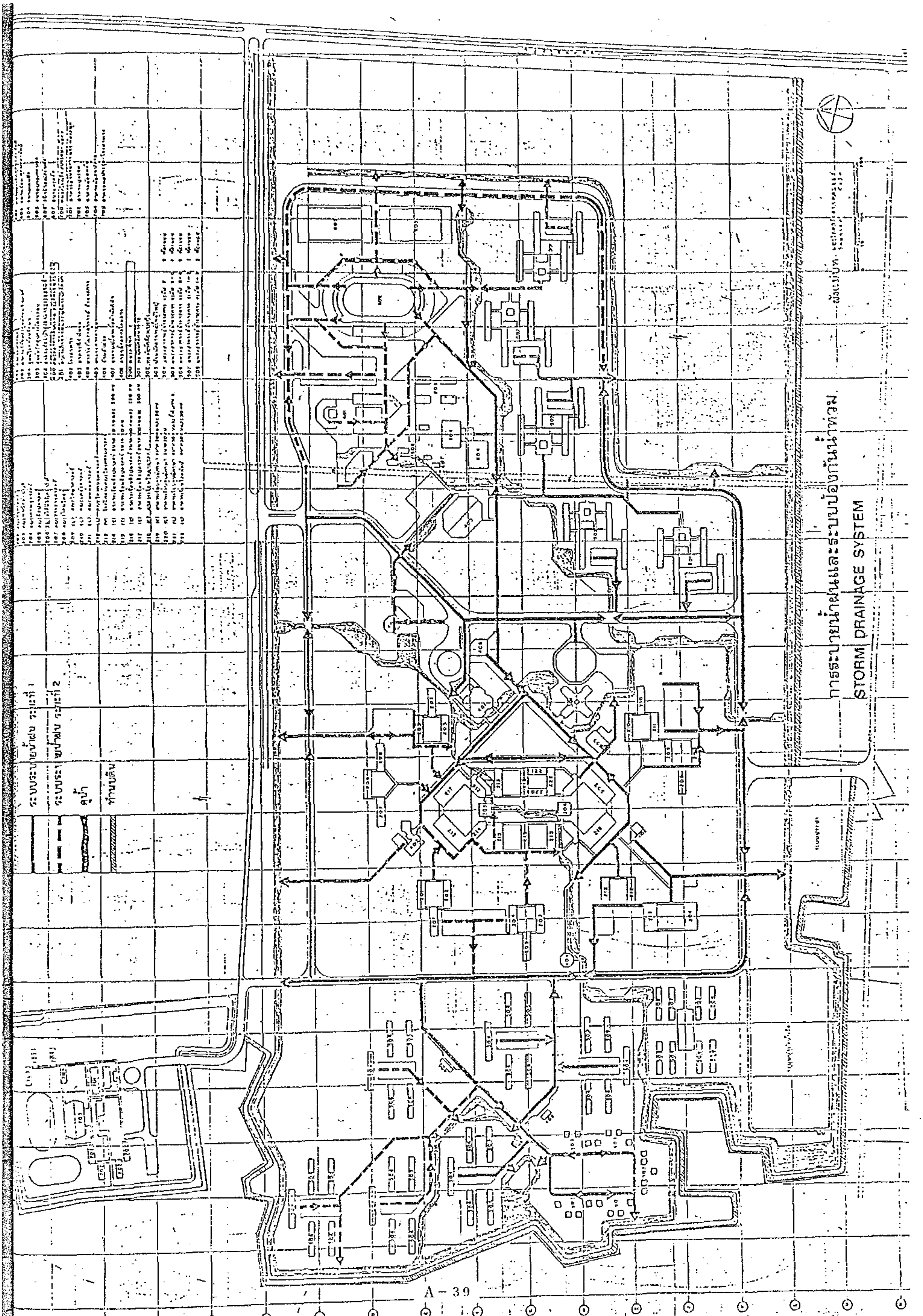

201 Faculty of Laws
202 Faculty of Political Science
203 Faculty of Commerce and Accountancy
204 Faculty of Economics
205 Faculty of Liberal Arts
206 Faculty of Social Administration
207 Faculty of Journalism and Mass Communication
208 Faculty of Sociology and Anthropology
209 (L) Faculty of Science
210 (L) Faculty of Pharmacy
211 (L) Faculty of Medicine
212 (L) Faculty of Engineering
213 (W) Work Shop of Engineering
214 (C) Class-room of Liberal Arts 30 P.200 P.
215 (C) Class-room of Liberal Arts 50 P.
216 (C) Class-room of Liberal Arts 100 P.150 P.
217 (C) Class-room of Liberal Arts 300 P. 500 P.
218 (C) Class-room of Science
219 (C) Class-room of Language-Center 20 P.30 P.
220 (L) Class-room of Language-Center 30 P.
221 (L) Class-room of Language-Center 50 and office
222 (L) Audio Visual Room 30 P.50 P.
301 Dome Building (Administration Building)
302 Library Building
303 Research and Computer Building
304 Audio Visual Center
305 Teaching Equipment Support Center
306 Work Shop
400 Health and Sports Group
401 Student Activities and Services Section
402 Canteen
403 In-Door Sport Building
404 Teachers and Officials Club
405 Religion Building
406 Store
407 Locker Room + Club House
408 Bus Stop
500 Residential Section
501 Male-Dormitory (Student)
502 Female-Dormitory (Student)
503 Faculty Residence
504 Staff Apartment Level 7 2 bed-room
505 Staff Apartment Level 3-6 1 bed-room
506 Staff Apartment Level 3-6 2 bed-room
507 Staff Apartment Level 1-2 1 bed-room
508 Staff Apartment Level 1-2 2 bed-room
602 Football-Rugby-Ground (Competition)
603 Football-Rugby-Ground (Training)
604 Tennis Courts
605 Basketball Ground
606 Valleyball Ground
607 Trakraw Ground
700 Primary-High School Section
701 Library Building
702 Primary School Building
703 Secondary School Building
704 High School Building
705 Auditorium and Dining Room
800 Training
802 Japanese Study Institute
JAPANESE STUDIES INSTITUTE
(SITE AREA:APPR. 80,000 SQ.M)
PROJECT SITE
Water Treatment Plant
Water Supply
MASTER PLAN
THAMMASAT UNIVERSITY
RUNGSIT CAMPUS

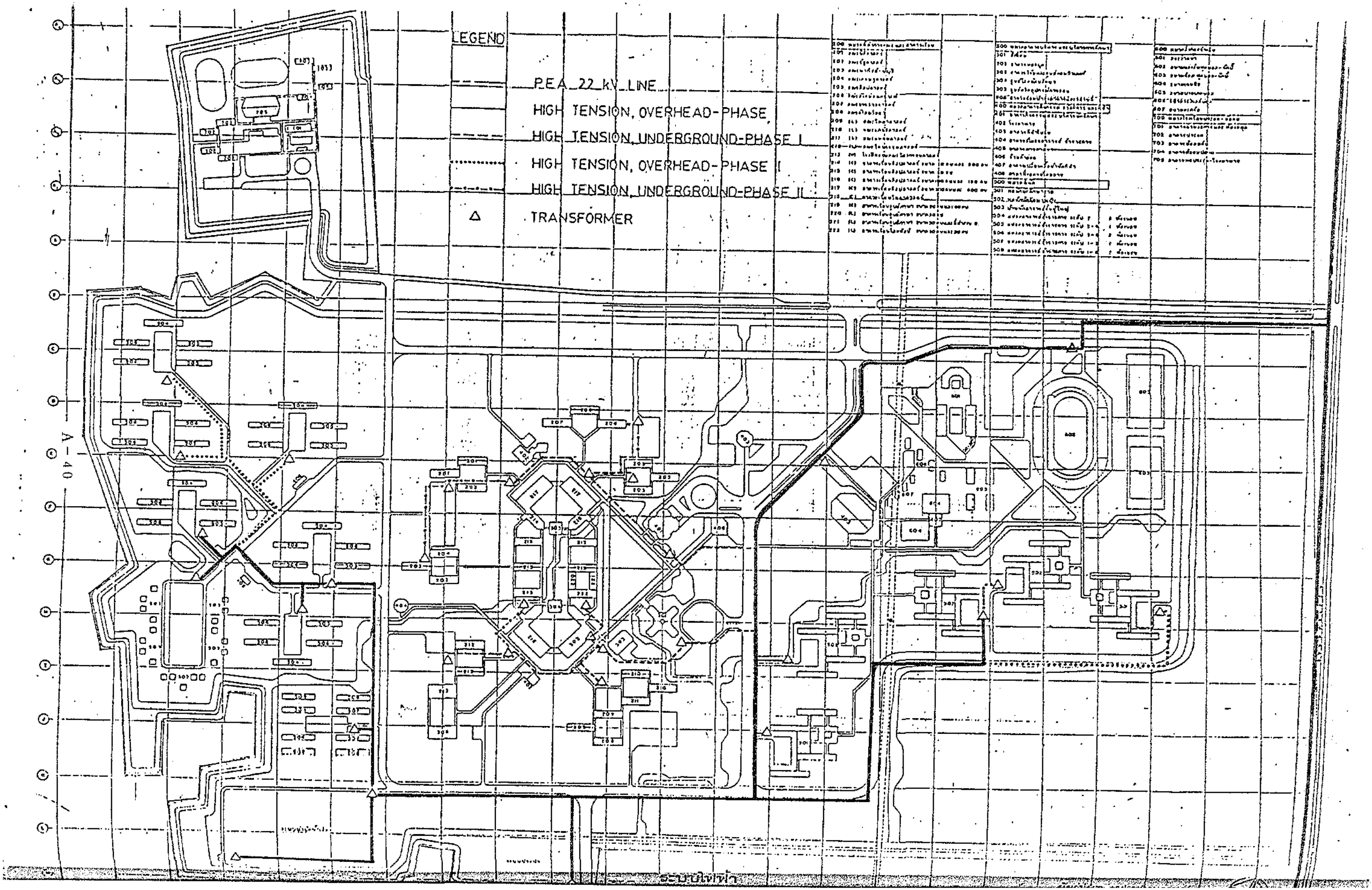

1 เขตการศึกษา
2 เขตที่พักอาจารย์
3 เขตที่พักนักศึกษา
4 เขตกีฬา
5 เขต ร.ร.ประถม·มัธ
6 เขตโรงพยาบาล
1. ACADEMIC ZONE
2. STAFF HOUSING ZONE
3. STUDENT HOUSING ZONE
4. SPORTS ZONE
5. PRIMARY SCHOOL
6. HOSPITAL
1
2
3
6
แสดงการแบ่งเขต
LAND USE PLAN

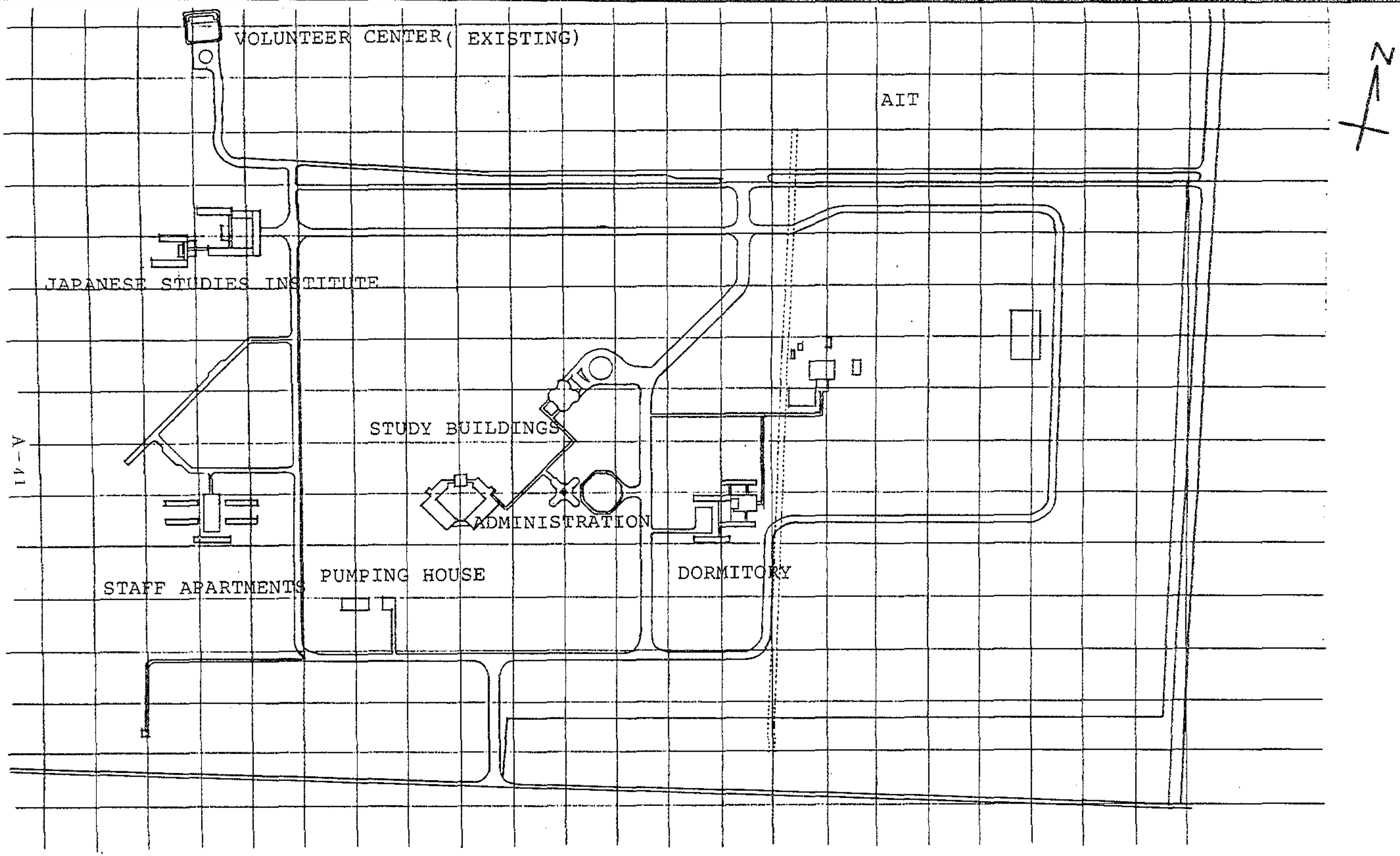

ระบบประปา
WATER SUPPLY SYSTEM



ระบบบำบัดน้ำเสีย
SANITARY SEWACE SYSTEM


การระบายน้ำฝนและระบบป้องกันน้ำท่วม
STORM DRAINAGE SYSTEM
ระบบระบายน้ำฝน ระยะที่ 1
ระบบระบายน้ำฝน ระยะที่ 2
คูน้ำ
ทำนบดิน


LEGEND
P.E.A. 22 kV LINE
HIGH TENSION, OVERHEAD-PHASE
HIGH TENSION, UNDERGROUND-PHASE I
HIGH TENSION, OVERHEAD-PHASE II
HIGH TENSION, UNDERGROUND-PHASE II
TRANSFORMER



FACILITIES TO BE CONSTRUCTED BY 1986

สถานที่ตั้งญี่ปุ่นศึกษา